

### 三 中村大尉事件

282 昭和6年5月31日 在満州里豊原（幸夫）領事館事務代理より 币原外務大臣宛

木ロンバイル地方実情調査の日本軍人の秘密行動を中國官憲注目について

機密第一九八號

昭和六年五月卅一日

（6月10日接受）

在満洲里

領事館事務代理 豊原 幸夫

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

呼倫貝爾地方ヲ往来スル日本軍人ノ動靜ニ對シ中國官憲ノ注意ノ件

去ル四月下旬以来我參謀本部陸軍省ヨリ秘密裡ニ派遣セラ

レタル軍人ガ軍事上ノ見地ヨリ呼倫貝爾地方ノ地形實情調

査ノ目的ヲ以テ商人等ニ化ケ往来シ居ルタメ同地方中國並

蒙古官憲ハ是等軍人ノ行動ヲ頻リニ注意シ居ルトノ風評盛

ナルニ顧ミ當館海拉爾出張員及牒者ヲシテ右ノ事實ノ無有

ヲ取調ヘシメタル處參謀本部ヨリ派遣ノ長大尉ハ本月上旬海拉爾在留邦人河崎某ヲ伴ヒ地質學研究ノ名目ノ下ニ呼倫貝爾ト外蒙ノ接境（主トシテ貝爾湖附近）ノ地形ヲ調査ニ赴キ又閏東軍派遣新妻少佐參謀本部派遣中村大尉ハ夫々地質學研究ト称シ海拉爾在留邦人服部某ヲ伴ヒ呼倫貝爾東北部ニ向ヒタル事實アリ之ヲ探知シタル海拉爾中國官憲及蒙古政廳ハ此等軍人ノ行動ニ對シ相當注意ヲ拂ヒ居ルモノノ如シ

右報告申進ス

283 昭和6年7月(24)日 在中國矢野公使館參事官より 币原外務大臣宛（電報）

中村大尉一行遭難説の記事差止めについて

北平 本省 7月24日後着

第三〇一號（暗）

永津武官ヨリ參謀本部庶務課長ヨリノ電報ニ基ク趣ヲ以テ參謀本部員中村大尉一行大興安嶺附近ニ於テ遭難セルカ如キ處右ニ關スル新聞記事差止方配慮アリタキ旨申出テタルヲ以テ本邦側新聞關係者ニ對シ右ノ通計ヒ置ケリ本件御承知ノコトトハ存スルモ爲念

御手配アリタシ  
（奉天宛ニハ「訓令トシテ哈爾賓、吉林、間島、長春、安東、牛莊、鐵嶺、遼陽、鄭家屯、齊々哈爾、滿洲里ニ轉電アリタシ」

天津宛ニハ「訓令トシテ青島、濟南、芝罘、張家口ニ轉電シ参考トシテ北平ニ暗送アリタシ」

上海宛ニハ「訓令トシテ南京、漢口、福州、廈門、廣東、香港ニ轉電シ参考トシテ在華公使ニ轉報アリタシ」ト各附記ノ事）

止方について

付記 七月二十五日陸軍省軍務局鈴木中佐電話要旨

行方不明となつた中村大尉一行の閔東軍による捜査実行中の旨通報

本省 7月25日後5時35分発

合第四二九號（暗）

先般參謀本部員中村大尉一行北滿大興安嶺附近ニ於テ行

不明トナレル事件アル処陸軍側ノ依頼アリタルニ付責管下ノ日本関係新聞及通信ヲシテ本件ヲ報道セシメサル様適宜

二、參謀本部附屬步兵大尉中村震太郎ハ邦人一名（旅館主人ト謂フ）及通譯ヲ同伴六月六日「エレクテ」發洮南ニ向ヒ此ノ間ノ旅程一個月ノ豫定ナリシ處途中ニ於テ行衛不明トナリ危害ヲ被レル虞アリ同大尉ハ學校教員ノ名義ニテ哈爾賓總領事館ヨリ護照ヲ得居レリ

三、本件ハ内地新聞ニモ報道セラレタルヲ以テ記事掲載禁  
止方手配シ置ケル處二十五日東京日ニハ掲載セラレ  
タリ

關側ヨリノ聞込ニ依レハ右某方面關係邦人トアルハ曩ニ當  
館ヨリ執照發給ノ陸軍大尉中村震太郎ト推定サルル趣ノ處  
本件眞相御通報煩ハシタク尙滿洲日報ニテハ當地醫大ヨリ  
派遣セル蒙古診療班ヨリ聞込ミタルモノノ如シ

大臣、滿洲里へ轉電シ哈爾賓、長春へ暗送セリ

285

昭和6年7月25日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

満洲日報が屯墾軍が中村大尉一行を殺害との記  
事掲載につき真相調査方チハル領事宛通達

奉天 7月25日後発 本省 7月25日後着

別電 七月二十六日發在チハル清水領事より幣  
原外務大臣宛第三〇号

齊々哈爾發本官宛電報  
第四六九號

第一號 齊々哈爾發本官宛電報

二十五日ノ満洲日報ハ在昂昂溪昂榮旅館々主井杉延太郎ハ  
同館宿泊ノ某方面關係邦人ヲ案内シ從者露、蒙古人各一名

ヲ伴ヒ六月下旬洮索地方ヲ旅行中行方不明トナリ搜查中同  
月二十七、八日頃蘇鄂公府（洮南、索倫間）附近ニ於テ索

倫屯墾軍ノ手ニ捕ヘラレ本月一日右一行四名慘殺セラレ屍  
体ハ燒棄サレタルコト判明シタル旨報シ居ル處當地特務機

名不明）ハ興安嶺山中ノ東支鐵道「イレクテ」驛ヨリ洮南  
ニ出ツル沿道ノ狀況調査ノ爲昂昂溪ヨリ井杉ヲ連レ（井杉  
ハ陸軍下士出身ニシテ當地方ノ地理ニ明ルク二三年來此種  
軍人ニ内地旅行ノ爲案内兼從者トシテ傭ハレ來レリ）「イ  
レクテ」ニ至リ同地ニテ旅裝ヲ整ヘ七月三日洮南到着ノ豫  
定ニテ六月九日「イレクテ」ヲ出發シタリ

中村一行ノ人數ハ井杉ノ外ニ露國人一名同伴セルコトハ明  
カナルモ其外ニ露國人ヲ同行セシヤ又ハ支那人若ハ蒙古人  
ヲ同行セシヤニ付テハ目下取調中又旅費トシテ邦貨三千圓  
ヲ携帶セシモ右邦貨ノ中幾干ヲ如何ナル通貨ニ換ヘ携行セ  
シヤハ明カラス

本官發奉天宛電報  
<sup>(2)</sup> 第五號ノ二（極秘）

七月三日洮南著ノ豫定ナル中村一行ノ行動ハ七月十七日頃  
以後何等消息ナキノミナラス豫定ヨリ十四五日ヲ經過セル  
七月十七八日ニ至ルモ洮南ニ出テ來ラサルニ依リ軍憲側ニ  
テモ心配シ始メ哈爾賓特務機關ニ命シ「イレクテ」洮南ノ

兩地ヨリ捜索隊ヲ出スコトトシ其手筈中七月二十日ニ至リ  
當地滿鐵公所日本人雇ノ妻「コミサ」（以前當地ニテ酌婦  
中村大尉事件

軍憲側ニテハ本問題ヲ軍憲側丈ニテ始末スル考ナル由ニテ  
當館ニ對シテモ絶対ニ秘密ニ爲シ居リ本官カ本件ニ關係シ

286

昭和6年7月27日 在チハル清水（八百一）領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

中村大尉一行の諸情報を林總領事に報告について

中村大尉一行銃殺に關する王翼先の情報  
チハル 7月27日前着 本省 7月27日前着

第二九號 本官發奉天宛電報

第三〇號 參謀本部ヨリ軍事用調査ノ爲派遣セラレタル中村大尉（本  
官發奉天宛電報第五號ノ三（極秘）  
ハ爾賓ニ報告セリ）

第三一號 本官發奉天宛電報第五號ノ三（極秘）  
廿三日當館高島巡查ハ別電ノ如キ情報ヲ入手報告セリ情報  
供給者ハ日本人ヲ妻トシ二三年前迄當地市政局長ヲ勤メ居  
リタル王ト呼フモノニシテ「コミサ」ニ語リタルモ同人ニ  
アラスヤト察セラル節多々アリ

王ハ別電ノ通又聞ナレハ原情報者カ誤リヲ傳ヘ居ラハ兎ニ  
角王自身ハ造り事ヲ言フカ如キ人ニアラストノコトニモア  
リ又情報ノ内容ハ事實ト符合スル點鮮カラサルニ付本情報  
ハ事實ニ近キモノニシテ被害者ハ中村一行ニアラスヤト察  
セラル

軍憲側ニテハ本問題ヲ軍憲側丈ニテ始末スル考ナル由ニテ  
當館ニ對シテモ絶対ニ秘密ニ爲シ居リ本官カ本件ニ關係シ

居ル軍人ヲ通シ爲念(一チアキ) 高島情報ヲ特務機關ニ傳達シタル際ニモ右軍人ハ他ニ迷惑ヲ掛ケス軍憲側丈ニテ始末スル考ナレハ何處ニモ報告セサル様本官ニ依頼方傳言セリ

軍憲側ニテハ差當リ蒙古ノ事情ニ通スル邦人ヲシテ蒙古人ヲ使ヒ遺骨ヲ掘取ラシムルコトニ手配中ナリ

<sup>(4)</sup> 本官發奉天宛電報

第五號ノ四（極秘）

本電報起案中哈爾賓特務機關ヨリ昂々溪井杉留守宅宛ニ

「井杉本二十六日夜歸宅ス」トノ電報アリタルカ之ハ軍憲側力貴電滿日所報ニ對スル逆宣傳ニ非スヤト思考セラル

本情報ハ各方面共極秘ニ取扱ヒ居リタルモ

ノ内容ヲ説明シタルコト

〔二〕洮南滿鐵公所力滿鐵本社ニ電報シタルコト

〔三〕本情報ヲ特務機關ニ通知スルニ當リ洮南國際公司ヨリ廿一日四平街ノ支店ヲ通シ電報シタル處廿二日ニ至リ同地憲兵隊ハ右情報ヲ承知シ居リタルコト

又聞キセルモノニ係リ目下同地方一般蒙古人間ニハ本事件ハ専ラ噂セラレ居ルカ軍隊側ハ本事件ノ日本側ニ聞知セラルコトヲ虞レ同地往來者ヲ嚴重警戒シ前記王ハ親日家ト目セラレ居ル爲身邊ノ危険ヲ感シ夜陰ニ乘シ當地ニ逃れ來レルモノナリ云々

287 昭和6年7月27日 幣原外務大臣より 在奉天林總領事宛（電報）

### 中村大尉遭難の事実取調方について

本省 7月27日後7時10分発

第一五三號（暗）

齊々哈爾死貴電第一号ニ閑シ  
本件ニ付テハ不取敢往電合第四二九号ノ通電報シ置キタルカ中村ハ學校教員ノ名義ニテ井杉外二名ヲ伴ヒ六月六日

「エレクテ」発約一ヶ月ノ予定ニテ洮南ニ向ヒタル處蘇鄂公爺府又ハ其ノ南方王爺廟附近ニ於テ行方不明ト爲リタルモノノ如ク尙同地方ヨリ齊々哈爾ニ歸來セル中国人某連長ハ其ノ情婦タル日本婦人ニ前記地方ニ於テ日本人慘殺セラレタルヤノ趣ヲ洩ラシタリトノ聞込アリ

等ノ事實アルニ付右何レカヨリ洩レタルモノト察セラル  
井杉歸宅ノ實否ハ追報スヘシ不取敢

本電別電ト共ニ外務大臣、鄭家屯、哈爾賓ニ轉電シ、長春ニ暗送セリ

（別電）

チチハル 7月26日後発

本省 7月27日後着

第三〇號

本官發奉天宛電報

第六號（別電極秘）

洮昂鐵道洮安ノ北方二百華里ニアル民安鎮所在蘇鄂公府ニ奉職中ノ中國人王カ本月廿三日當館高島巡查ニ語レル處ニ依レハ民安鎮駐屯歩兵第三團ノ所屬軍隊ハ六月廿八九日頃同地飯店ニ於テ食事中ノ日本人二名露國人二名及蒙古人一名ノ一行ヲ引致拘禁シ軍事探偵ノ廉ヲ以テ七月一日夜同地東山ノ東方ニ於テ銃殺ニ處シ所持金若干拳銃一挺及馬二頭ヲ奪ヒ屍體ハ直ニ燒却セル由ナリ本事件ノ真相ハ同團所屬軍隊ノ子弟ヲ教育シ居ル一教師カ公府ニ密告シ前記王之ヲ

就テハ中村一行遭難ノ事実アリヤ内密御取調ノ上回電アリ度訓令トシテ滿州里齊々哈爾哈爾賓長春ニ轉電シ冒頭貴電ト共ニ鄭家屯ニ轉電アリタシ

288 昭和6年7月27日 在チチハル清水領事より 幣原外務大臣宛（電報）

### 中村大尉に關する情報提供者の秘密保持を林

総領事に依頼について

チチハル 7月27日後発

本省 7月27日後着

第三一號

本官發奉天宛電報第七號

往電第五號ニ關シ

中村大尉遭難事件ニ付テハ陸軍側ハ今日ニテモ尙當館ニハ秘密ニシ居リ從テ當館ト陸軍側間ニハ何等交渉ナキ處哈爾賓ヨリ同地特務機關附宮崎大尉二十六日夜昂々溪ヘ出張着ノ赴聞込タルニ付本官同夜同地ニ出張本問題ニ關シ宮崎ト情報及意見ノ交換ヲ爲シタリ其結果左ノ如シ

(一) 井杉歸宅ノ電報ハ電報ノ誤讀ナリ

(二) 中村一行人員ハ往電第五號以上ニハ陸軍側ニテモ不明ナリト

(三) 軍側ニテハ「コミテ」高島情報以外新ナル材料ナシ

(四) 本件ニ對スル軍側ノ態度ハ當初ヨリ證據ヲ蒐集シ奉天總領事ニ交渉ヲ依頼スル考ナリト

本官發奉天宛電報

第七號ノ二

(五) 軍側ニテハ目下遺骨ノ拾ヒ取り及交渉材料ノ蒐集ニ腐心中ナリ

(六) 本官ハ高島情報供給者ノ立場ヲ考慮シ其名ヲ交渉上ニ利用セサル事ヲ條件ノ下ニ高島情報ノ出所ヲ告ケ置キタリ

尙軍側ニテハ搜索隊ヲ出ス事ハ「コミサ」情報入手ト共ニ中止セリ又往電第五號( )ノ冒頭ニ「七月十七日頃」トアル

ハ「六月十七日」頃ノ誤

高島ニ情報ヲ供給シタル王ハ日本側ニ好意ヲ以テ他ニ漏サル條件ノ下ニ高島ニ告ケタルヤノ趣ナル處將來交渉ノ際同人ノ名ノ引用サルル事アラハ中國側ノ事故同人ノ一身上ニ危險ノ及フ虞アルニ付王ノ名ハ絕對ニ秘密ニスルコトニ

御取計願ヒタシ

委細公信

外務大臣鄭家屯ニ轉電セリ

哈爾賓、長春へ暗送セリ

289 昭和6年7月28日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛(電報)

軍側は中村大尉事件を極秘扱いにつき中國側

との交渉は見合せ中との鄭家屯領事報告

奉天 7月28日後発  
本省 7月28日後着

第四七七號

鄭家屯發本官宛電報

第一〇號

齊々哈爾宛貴電第一號中村大尉一行遭難ノ件ハ本月當地在留者谷耕三(表面滿洲日報通信員ト稱スルモ實ハ四平街憲兵隊ノ現役下士)カ本件顛末ニ關シ極秘トシテ本官ニ内話シタルカ其内容ハ在齊々哈爾領事發貴官宛電報第五號ト略同様ナルニ付電案ヲ作成シタルモ發送ヲ見合セタル次第ナ

尙本件ハ清水領事ノ電文ノ通軍部ハ絕對極秘トシテ秘力ニ策動中ノ由谷ノ申出モアリシヲ以テ本件發生ノ疑アル地點ハ當館管内ナルモ軍側ノ申出アル迄支那側ニ捜査等ニ關スル交渉ヲ見合セ居タリ

ケル支那側トノ交渉ノ資料トナルヘキ証據突止方ニ御努力相成度  
陸軍出先ニ於テ領事館側ト協力スル様軍部ヨリ電訓スミ  
長春、哈爾賓、齊々哈爾、滿洲里、鄭家屯ニ訓令トシテ轉電アリ度

291 昭和6年7月29日 在ハルビン大橋總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

中村大尉ヘハルビン總領事館より發給の護照

に關し取扱い注意の必要について

ハルビン 7月29日後発

本省 7月29日後着

第一四八號(極秘)

齊々哈爾領事發奉天總領事宛電報第六號ニ關シ

中村大尉一行の遭難に關し証拠探索に努力方訓令

290 昭和6年7月29日

幣原外務大臣より  
在奉天林總領事宛(電報)

本省 7月29日後3時52分発

鄭家屯發貴官宛電報第一〇号ニ關シ本件處理振ニ付テハ軍部トモ協議ノ上何分ノ義申進スル筈ナルカ差當リ將來ニ於

尙本件ハ清水領事ノ電文中本件ノ新聞ニ漏レタルハ谷ノ所爲ナラントノ想像アリタルカ同人ハ前陳ノ通ノ立場ニアリ本件探知ノ際四平街憲兵隊ヲ通シ各關係軍憲ニ電報シタル趣ナルモ本人力外部ニ漏ラス様ノ事ハ絕對ニ無シト斷言シ居タリ

債ノ證據ヲ握ラレタルカ如キ場合ハ將來斯ノ如キ護照ニ對

スル加印ニ手心ヲ加フルハ勿論排日ノ逆宣傳ニ利用スル虞

アルニ付テハ本件ニ關シ將來何等カノ形式ニテ支那側ト接

觸シ若ハ外部ニ事件ヲ發表スルカ如キ場合ニハ慎重ナル考

慮ヲ加フル必要アルヘシ

支、北平、齊々哈爾、鄭家屯へ轉電セリ

292 昭和6年7月30日 在チチハル清水領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

屯墾公司および遼寧省官憲が日本人とモンゴ

ル王族との接近を警戒について

チチハル 発 本省 7月30日後着

第三四號 鄭家屯發奉天宛電報第一一號前段ニ關シ

屯墾公司設立以來同公司ハ勿論奉天官憲ニ於テ日本人ノ洮索線方面ニ入ルヲ非常ニ警戒シ洮索鐵道ノ如キハ日本人ノ乘車ヲ拒絕シ居ル趣ナリ又當地交渉員ハ本官ニ對シ奉天ヨリ日本人ノ入蒙（脱）スル者ナキヤ警戒方度々訓令ニ接ス

ル旨數回内話セルコトアリ

右ハ屯墾公司力蒙古王族ノ土地ヲ強制的ニ取上ケ居ルト王族ノ日本側ニ接近セントスル傾向アルトニ依リ日本人力王族ニ入智惠ヲ爲シ又ハ王族力土地其他ヲ擔保ニ借款シ公司ノ事業ニ支障ヲ來シ若ハ利權ノ外逸ヲ來スコトヲ恐ルヽニ出ツルモノニアラスヤト察セラルヽ節アリ御参考迄

奉天、哈爾賓、鄭家屯、長春へ暗送セリ

293 昭和6年7月31日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

中村大尉は護照二枚を所持について

奉天 発 本省 7月31日後着

第四八六號 貴電第一五三號前段ニ關シ

中村大尉ハ學校教員ノ名義ニテ旅行セリトアル處當地特務機關ニ付調査セルニ哈爾賓總領事館ノ護照下附願ニハ學校教員トセルモ護照ニハ單ニ中村震太郎ト記載シアル趣ナル處一面當館ニ於テ當地特務機關ノ申請ニ基キ五月五日附ヲ

322

以テ發給セル東北四省遊歷護照面ニモ單ニ中村震太郎ト記載シアルモ查證ニ關スル當地交渉員宛公文ニハ身分ヲ官吏ト記載シアリテ中村ハ右護照二枚ヲ所持セル由ナリ尙右護照二枚ヲ携帶セシ理由ハ奉天ノ護照ニハ支那側ノ查證ニ洮南、洮安方面ヲ旅行停止區域トスル條件ヲ付シアルヲ以テ別ニ哈爾賓ノ護照ヲ受ケタルモノナリト云フ御參考迄

哈爾賓、齊々哈爾、鄭家屯へ轉電シ長春、滿洲里へ暗送セリ

294 昭和6年8月2日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

石原參謀の中村大尉事件を軍側にて担当方申し出に不同意を回答について

奉天 8月2日後発

第四九〇號 貴電第一五六號ニ關シ

二日關東軍石原參謀並ニ當地特務機關花谷少佐來訪中村大尉ノ事件ニ關シテハ殺害ノ事實大體見當付キタル處此上本件交渉ヲ遷延スル時ハ徒ラニ支那側ニ證據溼滅ノ機會ヲ與

フルニ過キサルヲ以テ此際關東軍ヨリ交渉方針ニ關スル意見ヲ政府ニ具申致シタキ次第ナリトテ大要左ノ趣旨ノ案ヲ示シ本官ノ贊同ヲ求メタリ

(一)現在派遣中ノ調査班<sup>班</sup>洮南着ノ頃合ヲ期シ隱密調査ヲ打切り交渉ニ移ル事  
(二)右交渉ニハ中村ノ軍人タル事ヲ明カニシ軍部ニ於テ之ヲ擔當シ總領事館ト充分協議スル事  
(三)交渉ノ第一步トシテ支那側ニ共同調査ヲ要求シ支那側ノ同意アリタル時ハ速ニ必要ノ人員ト隊（歩兵一個小隊）ヲ現地ニ派遣シ置キ現地ニ於テ支那側調査員ノ來着ヲ待ツ事  
(四)共同調査ノ諾否ニ付テハ最小日時ノ期限ヲ附シ支那側ニテ承諾セサル時ハ實力調査ヲ行フヘク右ハ共同調査申入ノ際豫メ警告シ置ク事

(五)解決條項ハ大體<sup>イ</sup>洮南地方及洮索鐵道ノ開放<sup>ロ</sup>謝罪<sup>ハ</sup>賠償<sup>ニ</sup>保障<sup>ト</sup>スル事

右ニ對シ本官ハ目下關係機關ニ於テ銳意取調中ノ事ニモアリ我方トシテハ先ツ第一ニ事實調査ノ完成ヲ期スルノ要アルヘク右案ニ付テ諸般ノ關係ヲ慎重ニ考慮スルノ必要モアリ今直ニ同意ヲ表シ難シト述ヘ置キタリ



御努力相成度而シテ右承認ノ上ハ謝罪、責任者處罰、賠償（金額ハ追テ電報ス）及將來ノ保障ヲ要求セラレ度要スルニ本件交渉ニ当リテハ我方調査ノ結果ヲ絶対ニ確実ナルモノトシテ押通スト共ニ目下満洲問題極メテ機微ナル関係ニ在ル折柄支那側ニ於テ本件ノ如ク明瞭ナル事件ヲ紛糾セシムル如キコトアランカ其ノ結果ノ及フ所極メテ重大ナルモノアルヘキヲ撤底セシメ先方ニ於テ逃避的態度ヲ執ルコトナク迅速ニ我方ノ要求ニ應スル様仕向ケラレ度

三、前記ノ如ク中村ハ身分ヲ秘シ居リタル關係上差當リ貴官ヨリ支那側ニ對シ其將校タルコトヲ明ニスルコトハ之ヲ差控ヘラレ度モ交渉開始後相當期間ヲ経過スルモ適當ナル解決矣ニ到達セサル場合ニハ中村ノ將校タルコトヲ明示スルト共ニ軍部ヲシテ其ノ支那側トノ特殊關係ヲモ利用シテ貴官ノ交渉ニ協力セシムルコトトスヘク（其時期ハ交渉進行ノ模様ヲ見テ軍側ト協議ノ筈）右時期ニ至ラハ必要ニ應シ貴官ヨリモ陸軍側カ今即ノ事件ニ付非常ニ激昂シ居ルコトヲ仄シ帝国陸軍ト東北陸軍トノ從来ノ親密ナル關係ニ顧ミ又將來トモ右關係

### ニ協力スル時機ニ至ラハ將校タルコトヲ明示スルモノトス

四、支那側ニ對スル要求ハ謝罪、責任者ノ<sup>(処)</sup>所罰、損害賠償、將來ノ保障ノ四件トシ損害賠償額ニ就テハ省部間ニテ協議決定スヘキモ意見提出アリ度

五、本件ヲ以テ滿蒙問題解決ノ<sup>(契)</sup>機トナスコトナク又調査ノ為我兵力ヲ使用スルコトナシ

六、外務官憲ノ交渉振ニ關シテハ外務省ヨリ奉天總領事ニ厳重訓令セラルル筈

### （付記）

昭和六年八月六日陸軍省軍務局

鈴木中佐電話要旨

中村大尉事件ニ關シ閏東軍ヨリ指示ヲ仰キ來レルニ對シ（大体奉天總領事來電第四九〇号報告ノ要領ナルモ右閏東軍電報<sup>(省略)</sup>写送付スヘシ）別記案一乃至六ヲ回訓シタキ意向ニテ明日アタリ軍務局長ヨリ亞細亞局長ニ御打合ニ參ルヘキモ予メ右案ヲ御覽置願度シ

右案中ノ三、五等ニ對スル外務省意見ハ上局ニモ報告シ置

（別電）  
本省 8月11日後7時20分發

第一六二號（暗、極秘扱）

中村事件ニ關シテハ左記ノ如ク処置スルコトシ外務省トモ協議済

一、支那側トノ外交交渉ハ外務官憲ニ於テ之ニ當リ最短期間ニ本件ノ解決ヲ期ス

二、一定期間ヲ経過スルモ支那側ト外務官憲トノ接衝適當ナル解決点ニ到達セサル場合ニ於テハ外務官憲ト協議ノ上軍ハ支那側トノ間にケル從來ノ關係ヲ利用シ外務官憲ノ交渉ニ協力ス

三、中村ノ身分ハ差當リ之ヲ秘スルモ軍力外務官憲ノ交渉

ヲ維持シ行ク爲本件ヲ圓満ニ解決スルコト可然旨ヲ以テ説得ニ努ムルト共ニ其ノ際ニハ前記實力現地調査論トハ軍部ノ主張ニ係ル旨仄スコトモ一案カト思考ス尚陸軍大臣ヨリ閑東軍司令官宛別電ノ通電報セリ

本電貴地特務機関ニ内示セラレ度  
支、南京、北平ニ轉電セリ

（別電）  
本省 8月11日後7時20分發

テ說得ニ努ムルト共ニ其ノ際ニハ前記實力現地調査論トハ軍部ノ主張ニ係ル旨仄スコトモ一案カト思考ス尚陸軍大臣ヨリ閑東軍司令官宛別電ノ通電報セリ

本電貴地特務機関ニ内示セラレ度  
支、南京、北平ニ轉電セリ

(欄外記入)

軍ハ外交々渉ヲ行フ權限ナシ

編注 別電一六二号と同内容の「中村大尉事件ニ関シ次官ヨリ閏東軍參謀長宛電報（暗號）」なる文書には

「六・八・八陸軍側持參」との欄外記入あり。

297 昭和6年8月12日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

中村大尉事件に関する交渉は当初より軍人たる身分を明示して行いたきに付き請訓

奉天 8月12日後発

第五〇四號

貴電第一六一號（三）ニ關シ

本件交渉ニ當リ當初中村力將校タルコトヲ秘シ交渉進捗ノ模様如何ニ依リ其身分ヲ明カニセントスルハ中村力護照入手ノ際特ニ身分ヲ明カニセカリシ點殊ニ中村力旅行中學校教員ノ名刺ヲ使用セル等ノ事實ニ鑑ミ一應尤モノ儀ト思考セラルルモ中村ノ身分ヲ終始秘シ終ルヲ得ルナラハ兎ニ角

298 昭和6年8月14日 在奉天林總領事宛（電報）  
交渉進行上有利ならば中村大尉の身分明示差支えなき旨回訓 本省 8月14日後6時発

第一六六號（暗、至急）

貴電第五〇四號（三）ニ關シ

中村ノ身分ヲ明ニスル方本件解決上却好都合トノ見込ナ

ラハ貴見ノ通り取計ハレ差支ナシ  
支、南京、北平へ轉電セリ

299 昭和6年8月16日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

中村大尉事件の新聞報道禁止解除について

中村大尉事件の新聞報道禁止の解除と交渉開始の発表について

別電

八月十七日發幣原外務大臣より在奉天林總

領事、在天津田尻總領事代理、在上海村井

総領事宛合第四七一号

中村大尉事件交渉開始に関する新聞発表

奉天 8月16日後発

第五〇九號（至急）

中村大尉遭難事件ニ關シ十七日本官憲主席ニ會見ノ筈ニ付三宅參謀長及當地陸軍特務機關トモ打合セノ上同日午後一時經過ヲ發表スルコトニ決定シ目下實施中ノ新聞紙掲載禁止解禁方關東廳宛電報セルニ付右御含ミ置キ相成度シ

哈爾賓ヨリ齊齊哈爾、滿洲里へ轉電アリタシ

間島、長春、安東、牛莊、遼陽、鐵嶺、鄭家屯、吉林、哈爾賓へ轉電セリ

~~~~~

三 中村大尉事件

300 昭和6年8月17日 在奉天林總領事他宛（電報）

幣原外務大臣より

在奉天林總領事他宛（電報）

右ノ如キハ事實上不可能ニシテ早晚軍人タルコトヲ明カニセサルヲ得サル立場ニ立至ルヘシト思考セラルニ付寧口交渉當初ヨリ軍人タルコトヲ明カニシテ支那側ヲシテ無用ノ疑惑ヲ抱カシムルヲ避クルコト得策ナルヘク幸ヒ當館ヨリ護照請求ノ際ニハ官吏タルコトヲ通知シアリ又哈爾賓總領事ヨリ支那側宛公文ニハ單ニ中村ノ氏名ノミヲ記載シアル次ニシテ當初ヨリ軍人ナルコトヲ明示スルモ交渉上左シテ大ナル支障ヲ來スモノトモ思考セラレサルニ付右御詮議ノ上卑見御採納ヲ得タク何分ノ儀至急御回電ヲ請フ支、南京、北平へ轉電セリ

(別電)

本省 8月17日後7時10分発

奉天 8月17日後発

合第四七一號(暗)

參謀本部員歩兵大尉中村震太郎ハ元騎兵曹長井杉延太郎及

露國人、蒙古人各一名ヲ從ヘ支那官憲発給ノ護照ヲ携行シ六月上旬中東鉄路西線博克圖駅附近ヲ発シ洮南ニ向ヒ旅行シ六月二十七日頃洮索地方蘇鄂公爺府(民安鎮)ニテ喫食中同地駐屯奉天軍興安屯墾隊第三團所屬ノ官兵ハ之ヲ襲ヒ護照ヲ提示セルニ拘ラス拉致監禁シ所持品一切掠奪ノ上銃殺スルニ至レリ

七月上旬以来我方ニ於テハ極力調査ヲ進メ其真相ヲ確認シ得タルヲ以テ支那側ニ対シ嚴重抗議シ陳謝、損害賠償、責任者ノ處罰、将来ノ保障等ニ就キ交渉ヲ開始スルコトトナレリ

301 昭和6年8月17日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛(電報)

中村大尉事件に關し減遼寧省主席に至急真相

調査の必要ある旨警告について

貴電第一六一號ニ關シ  
第五一一號

十七日本官減主席ヲ訪問シ簡單ニ事件ノ概要ヲ認メタル覺書ヲ手交シタル後軍側ニ於テハ相當昂奮シ居ルヲ以テ速ニ事件ヲ解決スルノ必要アル旨ヲ申入レタル處減ハ如何ナル事ナルヲ問ハス事情ヲ上司ニ報告スルコトナク地方軍隊ニ於テ勝手ニ外國人ヲ殺害スルカ如キハ頗ル不都合ナルヲ以テ參謀長(事實上副司令代理)榮臻ト協議ノ上至急適當人物ヲ現地調査ノ爲派遣スルコト然ルヘシト考フル處右殺害事實ニ關シ日本側ハ如何ナル證據ヲ有シ居ラルヤト反問セルニ付本官ハ相當ノ證據ヲ擱ミ居ルモ右ハ中國人ニ關スルヲ以テ今直ニ種子ヲ明カサハ證人ニ危險ノ及フ虞アルニ依リ兎ニ角責任者トシテ貴方限リノ調査ヲ以テ事實ヲ明カニセラレタント答ヘタル處

減ハ本日中ニ榮ト相談ノ上調査辨法ヲ決定スヘシト述ヘタリ

尙右談話中減ハ中村大尉力軍人ノ資格ニテ旅行セリヤ奉天

及哈爾賓ノ護照二枚ヲ攜帶セルハ如何ナル事情ナリヤ將又

旅行ノ目的ハ如何等質問セルヲ以テ中村ハ護照面ノ通個人

ノ資格トシテ經濟調査ノ爲旅行セルモノナルト共ニ奉天ノ護照ニハ交渉員力加印ノ際洮南西部地方ヲ旅行禁止區域トル「ソルボーン」事件カ目下重大問題トナリ居ルニ鑑ミ本件ノ如キ帝國軍人カ殺害セラレタルハ「ソルボーン」事件ニ比シ更ニ重大ナレハ最短期間ニ眞相調査アリタク然ラサレハ日支國交ニ重大ナル影響ヲ與フヘキ旨ヲ説明シ本件ノ重大性ヲ充分先方ニ「インプレス」シ置キタリ

哈爾賓ヨリ滿洲里、齊々哈爾ヘ轉電アリタシ

支、南京、北平、哈爾賓、鄭家屯、長春へ轉電セリ

302 昭和6年8月19日 币原外務大臣より

在奉天林總領事宛(電報)

たとの新聞報道につき陸軍側に注意喚起について

本省 8月19日後8時40分発

參謀本部付森少佐が減遼寧省主席を訪問威嚇し

三 中村大尉事件

303 昭和6年8月19日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛(電報)

公使北平南京ニ轉電セリ

貴電第五一一號ニ關シ  
第一六七號(暗)

十八日貴地發新聞電報ハ參謀本部附森騎兵少佐力同日減式毅ヲ往訪シ本件交渉ハ外務省力主体トナルヘキモ軍部ニ於テモ支那側態度ヲ監視シ誠意ナシト認メタル場合ニハ武力使用ヲ辞セサル覺悟アル旨申入レタリトテ其ノ顛末ヲ報道シ居レルニ付直ニ陸軍側ニ訊シタルニ森ハ北平駐在ノ研究貟ニシテ本件ニ何等関与スヘキ筋合ノモノニ非ス右新聞記事ハ事実無根ト思考ストノコトナリシヲ以テ更ニ軍部出先ニ於テ本件交渉ニ協力スル場合ニハ予メ外務官憲ト協議ノ上之ヲ為スヘキコトニ外務陸軍間ニ打合セアル次第ニシテ林總領事ヲ差措キ然モ森ノ如キ本件ニ無関係ノモノカ此種行動ヲ為シタルコト事實トセハ甚タ不都合ナル旨ヲ申入レ嚴重查明方ヲ求メ置タルカ本件森ノ減ニ對スル申入ノ經緯回電アリ度

森岡領事より臧主席に中村大尉の身分秘匿について

つき説明について

奉天 8月19日後発  
本省 8月20日後着

第五一四號

往電第五一一號ニ關シ

殺害事實内密調査ノ爲當地長官公署ヨリ適當ナル人員二名ヲ派遣スルコトナリ十九日朝出發現地ニ急行セル旨臧式<sup>(武)</sup>毅ヨリ内報アリタリ尙本件ニ關シ臧ハ十九日往訪ノ森岡ニ對シ中村ハ哈爾賓ノ護照ニ農學博士ト記入シアル旨仄聞シタルカ事情如何ト尋又何故軍人ノ資格ヲ秘シ私人ノ資格ニテ旅行セリヤト聞キタルヲ以テ森岡ヨリ哈爾賓總領事館ニ照會シタルニ護照面ニハ單ニ中村震太郎トアリテ農學博士云々ノ肩書ナシ（中村ハ東京黎明會主事農學士ノ肩書アル名刺ヲ持チ居タル由ニテ多分臧ハ此事ヲ聞込ミタルモノノ如ク當方トシテハ此際此點ニ觸ルルハ不得策ナルヲ以テ先方ヨリ證據ヲ突付ケル迄白バケルコトセリ）又正式ニ軍人トシテ旅行スルトキハ人目ヲ惹キ調査上不便ニモアリ且從來何故力支那側ニ於テハ往々軍人ノ旅行ヲ阻止スル

中村大尉遭難事件ニ關シ當地特務機關ト打合ノ結果當地滯在中ノ柴山顧問ヨリ本件經過ヲ張學良ニ内報セシムルコトトセルニ付右御含置相成度シ大臣へ轉電セリ

（付記）

北平 8月20日前發

參謀本部 8月20日後着

（秘）

十九日柴山顧問良ニ面會ス

其際學良ヨリ新聞記事ニテ見タリトテ中村事件ノ内容ヲ訊ネシニ付柴山ハ「自分モ詳細ハ尙知ラサルモ參謀本部中村

大尉一行カ蘇鄂公爺府附近ニテ興安屯墾第三團ノ爲射殺セラレ其證據モ既ニ明トナリアルニ付日本人一般殊ニ軍部ノ激昂甚シク更ニ十八日青島ニモ事件起リシニ付自分ハ事態ノ惡化ヲ憂慮ス」ト答ヘタリ學良ハ更ニ「斯カル感情ノ行違ヨリ事件ノ頻發スルコトハ誠ニ殘念ナルニ付十分取締ル可シ尙自分ハ未タ何等ノ報告ヲモ受ケアラサルカ何レ報告モ來ル可キニ付取調ノ上處置ス可シ」トテ顏ヲ顰メアリタ

惡弊アルヲ以テ特ニ私人トシテ旅行セルモノナルヘシト答ヘタル趣ナリ  
支、北平、南京、哈爾賓、鄭家屯へ轉電セリ  
哈爾賓ヨリ齊齊哈爾へ轉電アリタシ

304 昭和6年8月20日 在奉天林總領事より

幣原外務大臣宛（電報）

柴山顧問より中村大尉事件を張學良に内報方

北平に通知について

付記 八月二十日發在北平永津（佐比重）公使館付武官補佐官より參謀本部二宮（治重）參謀次長宛北平第八二八号電報

中村大尉事件に関し調査の上処置する旨の

柴山顧問に対する張學良談話について

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五一九號（暗）

本官發北平宛電報

第三五號

奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二一號（暗）

本官發北平宛電報

第三六號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二二號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第三七號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二三號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第三八號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二四號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第三九號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二五號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第四〇號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二六號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第四一號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二七號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第四二號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二八號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第四三號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二九號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第四四號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二一號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第四五號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二二號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第四六號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二三號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第四七號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二四號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第四八號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二五號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第四九號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二六號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五〇號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二七號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五一號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二八號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二九號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二一號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二二號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二三號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二四號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二五號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二六號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二七號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二八號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二九號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二一號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二二號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二三號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二四號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二五號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二六號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二七號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二八號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二九號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二一號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二二號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二三號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二四號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二五號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二六號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二七號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二八號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二九號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二一號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二二號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二三號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二四號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二五號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二六號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二七號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二八號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二九號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二一號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二二號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二三號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二四號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二五號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二六號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二七號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二八號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二九號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二一號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二二號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二三號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二四號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二五號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二六號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二七號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二八號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二九號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二一號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二二號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二三號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二四號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二五號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二六號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二七號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二八號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二九號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二一號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二二號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二三號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二四號（暗）

本官發齊齊哈爾宛電報

第五二五號

付記 八月二十日後發奉天 8月20日後発本省 8月20日後着

第五二六號（暗）

本官發齊齊哈

三 中村大尉事件

- 306 昭和6年8月21日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）  
森少佐の臧主席訪問は特務機関側と打合せ済  
みとみられる旨報告について
- 奉天 8月21日後発  
本省 8月21日後着
- 貴電第一六七號ニ關シ
- 本件ハ大体往電第五一三號所報ノ通ニシテ森少佐單獨臧主席ヲ往訪シ中村大尉ノ殺害ハ同大尉ノ友人トシテ憤激ニ堪ヘス本件ニ就テハ林總領事ヨリ既ニ交渉開始ノ所既往ニ於ケル事例ヨリ見ルニ交渉事件ニ對スル中國側ノ態度兎角誠意ヲ缺ク嫌アルニ付參謀本部及關東軍ニ於テハ中國側ノ態度ヲ充分監視シ居ル旨通告シタルモノニシテ當日ハ特務機関長更迭直後ノ事トテ森少佐ハ特務機關補佐官ト打合ノ上右措置ニ出テタルモノト思考セラル尙新聞ニハ多少事實ヲ誇張シテ發表シタル嫌アルカ如シ
- 支、北平、南京へ轉電セリ
- 
- 307 昭和6年8月24日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）  
中村大尉事件に關し中國側より共同調査の申  
し出ありたる場合は拒絕の方針について
- 奉天 8月24日後8時17分発  
本省 8月24日後8時17分発
- 第一七一號（暗）
- 中村事件ニ關シ支那側ヨリ共同調査ヲ提議シ來ルコトナキヲ保セサル處共同調査ハ却テ専後ノ交渉ニ不利ナル影響ヲ及ホス虞アルニ付右支那側ヨリ提議アリタル際ニハ之ヲ拒否スルコトト致度尤モ特ニ共同調査力我方ニ取り有利ト認メラルカ如キ理由アラハ早目ニ御請訓相成度シ  
公使北平南京ニ轉電セリ
- 
- 308 昭和6年8月25日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）  
中村大尉事件証人の遭遇をチチハル領事宛通達
- 奉天 8月25日後発  
本省 8月25日後着
- 第五三三號
- 
- 309 昭和6年8月26日 在鄭家屯大和久（義郎）領事より  
幣原外務大臣宛  
(9月2日接受)
- 中村大尉遭難地點は遼寧省政府の旅行停止区
- 在奉天  
總領事 林 久治郎殿
- 中村大尉遭難地點ハ奉天省政府ノ所謂旅行停止區域ナルノ件
- 機密公領第八三號
- 昭和六年八月二十六日  
在鄭家屯  
領事 大和久 義郎
- 在奉天  
總領事 大和久 義郎〔印〕
- 中村大尉遭難事件ニ關シ或ハ奉天省政府ガ旅行停止區域ヲ實ニ責任回避スルナキヲ保シ難ク勿論右ハ條約違反ノ行為ニテ我方ノ承認シタル次第ニハ無之問題トスル筋合ニハアラザル可キモ當館發給ノ内地行護照ニハ當縣政府ハ必ス「札薩克圖、鎮國公、圖什業圖ノ三旗洮南、開通、洮安等ノ地域ヲ旅行停止地點トスル符箋ヲ付シ我方ノ抗議アルニ拘ハラス今以テ解決セサル次第ハ已報ノ通リナル處今回中村大尉ガ貴館ヨリ受ケタル内地行護照ニモ多分省政府側ヨ記件名公信寫送付

リ右區域ノ旅行停止云々ノ註記アリタルモノト察セラルルニ就テハ中村大尉ノ遭難區域タル蘇鄂公府ハ右停止區域ニ屬スルヤ否ヤヲ各方面ニ就テ調査シタル處右ハ科爾沁右翼後旗俗ニ鎮國公ト稱シ即チ蘇鄂公府一帶ニシテ奉天省政府ノ所謂旅行停止區域ニ屬スル趣ナリ

何等御参考迄ニ報告申進ス

本信寫送付先 外務大臣 長春、哈爾賓、齊々哈爾各總領事領事

310 昭和6年9月2日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

臧主席の中村大尉事件調査が困難なる状況を  
森岡に談話について

奉天 9月2日後発  
本省 9月2日後着

中村大尉事件ニ關シ一日森岡ヲシテ臧主席ヲ訪問シ調査員出發後既ニ二週間ヲ經過シ今尙歸來セサルハ如何ナル事情ナルヤ文書又ハ特使ニ依ル中間報告等皆無ナル次第ナリヤ

調方法ニ關シテハ御注意迄モナク當初考慮ヲ加ヘタルモノ本件發生地タル興安、屯墾區ハ遼寧省主席ノ管轄所ニシテ目下洋行中ノ屯墾督辦鄧作華ノ管轄（屯墾區ハ洮安、索倫ノ兩縣及蒙古王直轄ノ地方ヨリ成リテ總司令ニ直屬シ洮安、索倫兩縣長ノ任命ニ關シテハ屯墾督辦ノ推薦ニ依リ前者ハ遼寧省主席ヨリ後者ハ黑龍江主席ヨリ夫々發令スルモ一切ノ行政ニ關シテハ屯墾側ノ指揮命令監督ニ服ス）ニ屬スルヲ以テ自分ヨリ密偵ヲ送ルモ實際上ノ調査困難ト認メタル様ノ次第ナル處本日ノ御申出ニ依リ改メテ何ト力考慮スヘシト答ヘタリ

尙臧ハ日本軍部ノ押ヘ居ル證據ニ關シ差支無キ程度ニ御通

知ヲ願ヘハ調査上甚々便利ナリト申出タルニ對シ森岡ハ我方ノ證據ハ主トシテ證人ナレハ之力陳述等ヲ具体的ニ通報

スルコトハ證人ノ生命ニ危險ヲ與フルノミナラス之力保護ニ關シテモ我方ハ不必要ニ莫大ノ物質的損害ヲ蒙ムル結果

ヲ來ス虞モアリ將來絕對已ムヲ得サル場合ニ非サレハ通知シ難ク元來調査ノ責任ハ支那側ニ在ルト共ニ屯墾軍殺害ノ事實ハ現地方面專ラノ評判ナレハ敢テ我方ノ立證ヲ俟タス

調査極メテ簡單ナリト信スル旨應答シ右要求ヲ回避シタル

將又調査員ハ一昨日頃既ニ歸奉シ省政府ヨリ中央政府ニ結果ヲ内報シタリトノ風評モアル處我方ニ於テハ本件調査員ノ歸奉ヲ極メテ重要視シ居ル次第ニ付一切打明ケ説明アリタク更ニ右軍司令部ノ調査ノミニ一任シ便々時日ヲ空費スルコトハ總領事ノ責任上相濟マサル感アルヲ以テ主席ノ權限ヲ以テ別ニ適當ノ方法ヲ講シ真相調査方特ニ御配慮ヲ望ム旨申入レンメタル處臧ハ余及榮臻トモ本件ニ對シテハ絶對的誠意ヲ以テ慎重協議ノ結果軍部ヨリ派員秘密調査ヲ行フコト最適當ト認メ即時實行シタル次第ナルカ本件調査ハ極秘ヲ要スル難事業ナルト共ニ中村大尉ノ殺サレタリト言フ地方ハ或ハ蘇鄂公府ヨリ相當離レタル所ナルヤモ知レス從テ調査員ハ必要ニ依リテハ其場所ニ赴キタルヤモ計リ難ク自然調査意外ニ手間取り居ルモノト考ヘラレ且事件ノ性質上書面ノ報告ハ勿論一切他人ヲ使用シ難キ事情アル爲調查員歸ル迄ハ中間報告ニ接スヘキ理由ナキニ付今暫ク猶豫アリタク南京發新聞電報ノ傳フル調査員歸來ノ報道ハ何等根據ナキ捏造説ニシテ實際ニ歸ル場合ハ即時御知ラセスヘク

此間何等小細工ヲ弄スル所ナシ又軍司令部ノ調査以外ノ取

趣ナリ  
公使、南京、北平、鄭家屯、哈爾賓、齊々哈爾ヘ轉電セリ  
311 昭和6年9月2日 三宅（光治）閏東軍參謀長より  
杉山（元）陸軍次官宛（電報）  
中村大尉事件要求條項に關し林總領事洮南地

付記一 八月十八日發全滿日本人自主同盟本部、國粹會滿州本部、滿州青年連盟奉天支部より

幣原外務大臣宛電報

中村大尉事件に関し将来の保障実行のため

四洮鐵道の占領を要請

二 陸軍省作成（八月二十四日外務省接受）

中村事件處理案

閏東軍 9月2日後発

陸軍省 9月2日後着

中村事件第三〇八號（秘）

中村事件其後ノ交渉狀況次ノ如シ

一、支那側ハ調査員歸還セサルヲ名トシテ何等ノ回答ヲ爲

サス却ツテ現地ニ於ケル證據煙滅ヲ策シ又逆宣傳ニ依

リ土匪ノ所業、保護地域外ノ行動、甚タシキニ至リテ

ハ日本軍隊ノ爲メニスル捏造説ナリ等ト放言スルニ至

レリ

當部約セシ七日乃至十日ノ期間ハ既ニ經過セリ此間總領事側ヨリハ形式的ニ二回計リ調査隊歸還ノ有無ヲ問合セタルノミ

二、林總領事ハ事件解決ノ爲相當熱心ナルモノアリ當部ノ主張スル洮索洮南地方ノ開放、賠償金最低額金二十萬圓ニハ概ネ同意ナリ

但シ責任者ノ處罰、謝罪、將來ノ保障等ニ關シテ

如何ニ切り出スヤハ支那側ノ出様ニ依ルト爲シ未タ確

乎タル腹案ヲ有セス當部職員力外務本省ハ今回ハ二週間位ニテ解決スル旨言明セル由ナリト告ケタルニ夫ハ机上ノ空論ナリトテ一笑ニ附セリ

三、當方力領事側ト緊密ニ連絡協力スル爲中央ヨリ外務ニ對シ要求セル事項ノ細部ニ關シ開示セラルハ最モ希望スル所ナリ

(付記二)

中村事件ニ對シ支那側力殺害ノ事實ヲ否認スルカ又ハ満足ナル解決點ニ到達セサル場合ノ處理案(陸軍省ヨリ送付)

(付記二)

中村事件ニ對シ支那側力殺害ノ事實ヲ否認スルカ又ハ

満足ナル解決點ニ到達セサル場合ノ處理案(陸軍省ヨリ送付)

判決

洮索地方ノ保證占領ヲ斷行スルヲ要ス

但シ兵力ハ駐滿軍隊中ヨリ所要ノ最少限ヲ使用シ且經費ハ之ヲ極度ニ緊縮スルヲ要ス

理由  
本事件ハ我方ニ於テハ支那側ニ對シ支那官兵殺害ノ確證ヲ把握シアルコトヲ申入レ而カモ支那側ニシテ如斯明瞭ナル事實ヲ否認スルカ如キ場合ニ於テハ事態ハ極メテ重大ナルヘキヲ告ケアル關係ヨリシテ萬一支那側ニ於テ事實ヲ否認スルカ如キ場合之ニ對スル處理ニ就テハ帝國權威ノ保持上相當ノ決意ヲ必要トス

本件ヲ以テ滿蒙問題ノ根本的解決ノ楔機タラシムルコトハ元ヨリ適當ナラスト雖モ對支涉外事項ノ處理ニ當リテハ事

ノ大小ニ論ナク可能的範圍ニ於テ歩一步帝國外交權威ノ伸張ニ努ムヘキハ政府當局ノ責任ナリトス殊ニ滿蒙方面ノ形勢今日ノ如ク逼迫シアルニ於テ益々然リトス之ヲ以テ力帝

ノ事實否認的態度ニ會シ之レト殺害事實ニ實否論ニ入ルカ如キハ絕對ニ之レヲ避ケルト共ニ支那側ノ回答如何ニ論ナ

ク帝國トシテハ飽ク迄テ殺害ノ事實ニ立脚シ支那側ニ對スル要求ヲ提示スルヲ要ス而シテ支那側ニシテ事實ノ否認ニ立脚シテ我方要求ヲ拒絶シ來ルニ於テハ帝國ハ茲ニ支那側ニ本件解決ノ誠意ナキモノト認メ之ヲ中外ニ聲明スルト共

參謀本部附中村大尉一行ノ虐殺サレタル件ニ付テハ全滿在留邦人ハ國威ノ失墜之ヨリ甚シキハナシトシ支那ノ不信暴舉ヲ極度ニ憤激シ此際常例ニ依ル損害賠償責任者ノ處罰將來ノ保障ヲ求ムル程度ニ止メス信義ナキ支那ヲシテ將來ノ保障實行ニ誠意ヲ求ムル爲我軍ニ於テ四洮線鐵道ヲ占領スルノ方途ニ出テラレムコトヲ懇請ス

參謀本部附中村大尉一行ノ虐殺サレタル件ニ付テハ全滿在留邦人ハ國威ノ失墜之ヨリ甚シキハナシトシ支那ノ不信暴舉ヲ極度ニ憤激シ此際常例ニ依ル損害賠償責任者ノ處罰將來ノ保障ヲ求ムル程度ニ止メス信義ナキ支那ヲシテ將來ノ保障實行ニ誠意ヲ求ムル爲我軍ニ於テ四洮線鐵道ヲ占領スルノ方途ニ出テラレムコトヲ懇請ス

加之満蒙方面ニ於ケル帝國ノ特殊地位向上ノ爲ニハ支那事  
情ニ通セサル第三者方面ヨリスル多少ノ批難ノ如キ之レア  
リトスルモ之ヲ忍ハフノ覺悟ヲ要スルニ於テオヤ右ノ如キ處  
断ハ單ニ事實ヲ否認シ來ル場合ノミナラス殺害事實ヲ認ム  
ルモ爾後言ヲ左右ニ托シ一定期間ヲ経過シ尙且ツ我力方ノ  
要求ニ應セサル場合ニ於テモ亦之ヲ斷行スルノ決意アルヲ  
要ス之レ支那ノ如キ國家ヲ相手トシテ交渉ヲ圓滿迅速ナラ  
シムルノ捷徑ナレハナリ

諷テ本案實行ニ對スル國內一般ノ狀況ヲ觀察センカ現下對  
支外交ニ對スル國論ノ趨向ニ鑑ミ一部極左分子ヲ除キテハ  
大方ノ贊助ヲ得ヘク殊ニ在野黨タル政友會ハ黨從來ノ主張  
上之ヲ反対シ得サル立場ニ在リ貴院及右傾方面ノ團體ハ大  
部之ヲ支持スヘキハ明力ナリ

## 處置

一、支那側カ殺害事實ヲ否認シ來ルカ又ハ否認セサルモ我  
方ノ要求ヲ迅速ニ應諾セサル場合直ニ步兵一大隊ヲ基  
幹トスル部隊ヲ洮南ニ派遣シ洮索鐵道ノ占領ヲ斷行ス  
二、支那側カ本交渉ニ誠意ナキヲ内外ニ宣傳シ併セテ從來  
ニ於ケル類例ヲ舉示ス

三、右保證占領力事件ノ圓滿解決以外他意ナキコトヲ聲明  
ス  
四、本事件カ國際聯盟ニ移サルヘキ場合ヲ顧慮シ所要ノ準  
備ヲ爲ス

~~~~~

312 昭和6年9月3日 三宅閑東軍參謀長より  
杉山陸軍次官宛(電報)

本庄軍司令官着任に關し張學良が柴山顧問を  
介し祝辭伝達並びに司令官の謝辞について

関東軍 9月3日後發  
陸軍省 9月3日後着

## 關參第三一二号(秘)

一、八月二十六日柴山顧問ハ關東軍司令官著任ニ對シ張學  
良ノ祝辭ヲ傳言シ左ノ如ク述ヘタリ

「張學良ハ未タ事件ノ内容ヲ深ク知ラサルモ東北陸軍  
ト日本陸軍トハ將來一層密ニ親和連繫シ度旨ヲ述ヘ尙  
中村事件ニ關シ事態容易ナラス不取敢調査ヲ命シタリ  
トテ狼狽シ成ルヘク穩便ニ解決セラレシコトヲ希望シ  
アリ支那ノ憂フル所ハ官兵ノ所爲トナレハ之ヲ口實ト

## 我が方要求条件

本省 9月4日後8時53分發

## 第一七七號(暗、極秘扱、至急)

## 貴電第五四六號ニ關シ

シテ開戦ニテモナラサルヤト懸念スルニアリ尙張學良  
ハ柴山ヨリ青島事件ヲ聞キテソハ初耳ナリト稱シアリ  
二、軍司令官ハ柴山ヲ介シ張學良ニ著任祝ニ關シ禮ヲ述べ  
シムルト共ニ左ノ要旨ヲ傳言セシメタリ  
「自分ハ東北陸軍ト軍部相互ノ間トシテハ力メテ親善  
ナル關係ヲ以テ進ミタキ所存ナルモ  
近來ニ於テハ不祥事件頻發シ兩者ノ關係面白カラス中  
村事件ノ如キモ日本就中我陸軍ハ極メテ激昂シアリ貴  
方ニテ誠意ヲ以テ解決セサレハ或ハ如何ナル事態ヲ惹  
起スルヤモ圖リ難ク此際虛心坦懷ニ處理スルハ相互ノ  
利益ナルヘント信ス、右諒承ヲ乞フ云々」

三、柴山ハ九月二日今田帶同赴燕セル答ナリ

~~~~~

313 昭和6年9月4日 紛原外務大臣より  
在奉天林總領事宛(電報)

中國側が交渉に入るよう一層の働き掛けを行  
うよう訓令について

別電 九月四日發紛原外務大臣より在奉天林總領  
事宛第一七八

事宛第一七八八

要アルヘシ)別電第一七八號ノ通り要求條件ヲ提出セラレ  
度而シテ右事態ニ達シタル際ハ即チ往電第一六一號(三)出先  
軍部協力ノ時期到來セルモノト認メラル處右協力ハ飽迄  
貴官ノ交渉ヲ援助促進スル趣旨ニ出スルモノニシテ協力ノ  
方法程度ハ貴官交渉ノ掛引ト完全ナル調和ヲ保タシムルヲ  
要スルニ付此ノ上共陸軍側トノ連絡ヲ密接ニシ萬遺憾ナキ

軍部ト打合ズミ

支、南京、北平ニ轉電セリ

(別電)

本省 9月4日後10時36分發

第一七八號(暗、極秘級)

要求條件

一、謝罪

臧式毅及榮臻ハ總領事及軍司令官ヲ訪問シテ最モ嚴肅ナル方法ヲ以テ謝罪ス

二、損害賠償

中村ノ爲メ七萬三千百八十圓(七三、一八〇)

井杉ノ爲メ二萬七千二百六十二圓(二七、二六二)

合計十萬四百四十二圓(一〇〇、四四二)トス

(中村ノ分内譯ハ)同人現收入年額千八百圓ヲ基礎トシ領事官執務參考書機密ノ部第八頁ノ式ニ依リ算出セ

ルモノ二万六百八十圓

(ロ)遺族タル父母、妻、子二名ニ對スル慰藉料一人當リ一萬圓計五萬圓

314

昭和6年9月4日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

中国側は第二回の調査を行う予定である旨の臧主席および栄參謀長談話について

奉天 9月4日後発  
本省 9月5日前着

第五六一號

中村大尉事件ニ關シ本官四日省長公署ニ赴キ臧主席及榮參謀長ニ會見調査員ノ歸奉ニ付質問セル處榮ハ實ハ昨夜歸奉シ今朝面會シタルカ右調査員二名ハ途中王爺廟ニ於テハ蒙古人ヨリ日本人被害ニ關スル噂ヲ聞込ミタルモ目的地蘇鄂

公府ニ於テハ何等ノ證據モ聞込ミモナク更ニ西方ニ家子迄出掛けタルカ之亦何等ノ收穫ヲ得ス結局無意味ニ引返シタル旨報告シ自分モ實ニ不満足ニ考ヘ居レリト答ヘタルヲ以

テ本官ハ十日餘リモ滯在シテ何等得ル所ナク歸レリト言フカ如キハ甚々奇怪ニ堪ヘス第一王爺廟ニテ斯カル噂アリ蘇鄂公府ニ於テ何等噂ナキハ關(前電石ハ誤リ)團長カ本件

發生以來嚴重ニ臧口令ヲ布キ居リ其爲斯カル噂ヲ立テタリトノ嫌疑ヲ以テ咎刑ニ處セラレタルモノスマラアリト言フ我方ノ情報ニ照シ甚々興味アル話ト言フヘク調査員力眞ニ努力セリトセハ此邊ノ推理ニ基キ今少シク有效ナル調査ヲ我

(ハ)遭難當時喪失金品二千五百圓

井杉ノ分内譯ハ(イ)齊々哈爾發本大臣宛電報第三六號ノ

現收入年額ヲ基礎トシ前顯ノ式ニ依リ算出セルモノ一

万七千二百六十二圓(ロ)遺族ニ對スル慰藉料一括一萬圓)

三、責任者ノ處罰

屯墾隊團長代理關中佐以下直接責任者ヲ嚴刑ニ處ス

(右ハ支那側法令ノ定ムルニ從ヒ最モ嚴格ナル處斷ヲ

要求スルモノナルモ具体的ニ罰目等ヲ指定セントスル譯ニハ非ス)

四、將來ノ保障

邦人ニ對スル挑索地方ノ事實的閉鎖ヲ解キ該方面ニ於ケル邦人ノ旅行ニ當リテハ支那側ハ完全ナル保護ヲ與ヘ特ニ必要ノ場合ニハ護衛兵ヲ附スヘキコトヲ約束ス(右必要ノ場合ニハ護衛兵ヲ附スルコトヲ支那側カ承諾セサル場合ニハ日本側自ラ之ニ代ル必要ノ措置ヲ取ルコトアルヘキ旨ヲ告ケ極力支那側ノ說得ニ努メラレ度)

~~~~~

國國交上重大ナル影響ヲ見ルノ惧アリ就テハ敢テ參謀長ノ誠意ヲ疑フ譯ニハ非サルモ此席ニ右調査員二名ヲ呼出シ同ノ面前ニ於テ質問ヲ試ミタク然ル時ハ何等力手掛リヲ得ルコトモアリ得ヘシト提議シタルニ榮ハ暫ク躊躇セルモ結局之ニ同意シ副官長ニ命シ調査員二名ヲ呼寄セタルモ不在ナリト稱シテ遂ニ出席スルニ至ラス

依テ本官ハ更ニ一步ヲ進メ關團長カ蘇鄂公府ニ居ル時ハ調查ノ邪魔ニナルト思ハルルカ如何又今後貴方ハ如何ナル方針ヲ以テ進マントスルヤト追究シタル處

<sup>(3)</sup>榮ハ右ハ同感ニ付團長ヲ奉天ニ呼寄セ訊問シ他面其留守ニシ當地軍法處員ヲ改メテ蘇鄂公府ニ派遣再調査スヘク此調査員ハ前回ト異リ必要ニ依リ或ハ公然或ハ秘密ニ調査ヲ爲ス様命令スヘキモ關團長ノ訊問ニ至リテハ何カ證據ヲ突付ケサル以上白狀セサルヘシト語リタルヲ以テ本官ハ關團長ノ呼出及第二回ノ調査ハ至急實行ヲ希望スルモ證據ノ點ニ付テハ此ノ際我方ヨリ進ソテ提供スルニ於テハ證人タル支那人ノ生命ニ危険ノ及フ虞アルニ付將來貴國側カ本件ヲ否認スルカ如キ場合ニ至ラサル限り打明ケ難ク又中國側トシテ之ヲ考ルモ我方ノ要求ヲ否認シ去リ逆ニ我方ヨリ證據

ヲ突付ケラレテハ甚々面目ナカルヘキノミナラスステハ事態頗ル重大化スヘキニ依リ此上トモ大至急誠意アル調査ヲ要求セサルヲ得スト突込ミタルニ臧及榮トモ事情ハ充分諒解シ事態ヲ重大視スル點ニ於テ中國側ハ敢テ日本側ニ讓ラスト答ヘタリ

尙最後ニ榮ハ只今學良ノ招電ニ依リ今夜出發北平ニ急行スルコトトナレルニ付出发前ニ關團長呼出シ及再調査員ノ人選ヲ決定シ且今回歸奉セル調査員ノ報告ハ内容大要前陳ノ通ナルモ御参考トシテ明日臧主席ヲ介シ貴官ニ通知スヘシト述ヘタルニ依リ一先ツ引取レリ

支、北平、南京、齊齊哈爾、鄭家屯、哈爾賓へ轉電セリ

315 昭和6年9月5日 在中国矢野公使館參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）

#### 中村大尉事件に関する江藤と張學良の会談内容

付記 九月五日発在北平永津公使館付武官補佐官  
より杉山陸軍次官宛電報  
東北における未解決諸懸案解決のため東北  
外交委員会組織を計画中との張學良より柴

#### 山顧問への報告について

北平 9月5日後発  
本省 9月5日後着

#### 第三八四號

四日歸平セル江藤カ同日張學良ト懇談セル内容トシテ本官ニ内報スル所左ノ通

一、自分（江藤）ヨリ中村大尉事件ニ付日本側ノ態度ハ極メテ強硬ニテ本件解決ノ如何ニ依リテハ日本ノ奉天側ニ對スル態度ニ至大ノ影響アルヘキ旨懇談シタルニ對シ張ハ自分モ本件ニ付テハ大イニ心痛シ居リ最近湯爾和ヨリ日本陸軍側ノ態度等ニモ顧ミ事態ノ頗ル重大ナル旨東京ヨリ急電アリ旁差當リノ措置トシテ參謀長榮臻ヲ呼寄セテ協議スルコトトシ又場合ニ依リ加害者ノ直接長官タル旅長ヲ招致シ自分（張）ヨリ直接問質シ果シテ事實ナルニ於テハ有ノ儘申述フレハ然ルヘク取計ヒ遣ルヘク事實無キニ於テハ夫ニ

テ宜シキモ若シ將來他ノ方面ヨリ事實判明セル場合ハ嚴刑ニ處スヘキ旨ヲ言ヒ聞カセテ淡白ニ白状セシメ其ノ結果日

本側申出ノ如キ事實アルニ於テハ日本ニ對シ適當ナル措置ヲ執ルコトニ躊躇スルモノニアラス元來此ノ種事件ハ事實

#### （付記）

北平 9月5日後発  
陸軍省 9月5日後着

北電第八六七号（四項迄部外秘）

柴山ヨリ

二十四日柴山、今田兩顧問張學良ヲ病院ニ訪問セル際彼ハ次ノ如ク語レリ

一、東北ニ於ケル日支兩國ノ現狀ニ鑑ミ此際速ニ未解決ノ

諸懸案ヲ解決スルノ急務ナルヲ痛感セルニ依リ今回左

記十名ノ委員ヨリ成ル東北外交委員會ナルモノヲ組織

シ以テ目下日本側カ東北ニ對スル交渉ノ責任者ヲ求ム

ルニ苦シミソツアル現況ヲ改メ將來一切ノ交渉ハ該機

關ニテ慎重ニ審議ノ上日本トノ交渉ニ當ラシムル考ナ

リ

### 左記

顧維鈞、羅文幹、湯爾和、劉哲、臧式毅、袁金鑑、劉尚清、章士釗（目下東北大學教授タリ）曹如霖、王樹幹

二、中村事件ニ就テハ二日既ニ榮臻並屯墾軍旅長ニ至急來

平斯ヘキ旨電報セルヲ以テ到著次第十分調査ノ上成ル

ヘク速ニ解決シタキ考ナリ（此際張學良ハ官兵ノ所爲

ナリトノ日本側ノ主張ニハ多大ノ疑問アリトノ意ヲ洩

セルヲ以テ軍部ニハ確乎タル實證アリト告ケタルモ釋

然タラス

### 王外交部長が中村大尉事件は事実無根と発言 の事実関係確認について

第五二三號

三日日本記者團トノ定例會見ニ於テ王正廷ハ一記者ノ質問

ニ對シ中村大尉殺害事件ハ事實無根ナリト言明シタル旨聯

合通信ニ依リ報道セラレ本邦ニ於テ問題トナリ居ル趣ニ付

五日館員ヲシテ當時王部長ノ通譯ヲ爲セル情報司課長

范漢生ニ確メシタル處范ハ右會見ノ際一記者ヨリ「ソウバ

ン」事件及中村大尉事件ニ付質問有リタルヲ以テ王部長ハ

右ニ付テハ何等承知セサル旨答ヘタル處更ニ一記者ヨリ中

村大尉事件ニ關シ中國側ハ調查員ヲ派遣シタル趣ノ處其報

告如何ト追求シタルニ依リ王部長ハ調查員派遣云々ハ事實

無根ニシテ自分ハ右ニ付何等承知セスト答ヘタル次第ナリ

ト説明セル趣ナリ

尙電通ハ右范ノ言ト略同様ノ通信ヲ爲シタル趣ナルカ記者  
中ニハ前記聯合ノ報道（尤モ聯合ハ共同會見ニハ出席セス  
他ノ同僚ヨリノ又聞ナリ）ヲ事實ナリト主張スルモノアル

惟フニ之迄ノ張學良及榮參謀長等ノ口吻及態度等ヨリ  
察スルニ飽ク迄官兵ノ所爲ナルコトヲ否認シ土匪ノ行

爲ナリトシテ或程度迄ノ日本側ノ主張ヲ認容セントス

ル意見ナルカ如ク判斷セラル

三、青島事件ニ就テモ速ニ解決スル様既ニ電命セルヲ以テ

該事件モ不日圓滿解決ヲ見ルヘシト期待シアリ

四、閻錫山ノ飛行歸省ニ關シ閻錫山カ張學良ノ代表鮑文越

ニ語リシ直話ナリトテ張學良ハ該事件ヲ詳細ニ知悉シ閻

錫山モ日本飛行家ノ技術ノ優秀ナルニハ驚キ居レリト

五、張學良ハ既ニ略々病前ノ健康ニ恢復シ執務接客等相當  
多忙ヲ極メツツアルカ何故力未タ退院セス尙彼ハ當分

歸奉スル模様ナシ

六、東北交通委員會主席高紀毅カ柴山顧問ニ語ル所ニ依レ  
ハ彼ハ近ク歸奉ノ上鐵道交渉ヲ開始スル豫定ナリト

（必スシモアテニナラサルモ參考迄）

關東、上海スミ

………

316 昭和6年9月6日 在南京上村領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

昭和6年9月6日

317 昭和6年9月6日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

ニ付右爲念電報ス  
公使、北平、奉天へ轉電セリ

貴電第一七七號ニ關シ

本官ニ於テハ折角支那側ノ說得ニ努力中ナルモ諸般ノ事情

ヨリ推察スルニ果シテ支那側ニ於テ淡白ニ中村大尉殺害ノ

事實ヲ承認スルヤ疑問ノ餘地多ク我方トシテハ最惡ノ場合

ヲ豫想シ御訓令執行ニ先立チ證人トシテ立チ得ヘキ者ヲ確

實ニ買收シ置クヨト必要ナリ幸五日清水領事來奉シタルヲ

以テ本六日土肥原大佐同席ノ上同領事ヨリ詳細ノ事情ヲ聽

取シ協議ヲ遂ケタル結果王ハ往電第五六二號ノ通證人ト

シテノ價值少キノミナラス之力買收ニ多額ノ金圓ヲ要スル

ヲ以テ之ヲ差止メ目下齊齊哈爾ニ滯在中ナル霍ノ買收ニ全

力ヲ擧クルト共ニ其他ニモ出來得ル限リノ證據ヲ蒐集スルコトトシ清水領事ハ本日歸任ノ途ニ着ケリ  
支、北平、南京へ轉電セリ

318 昭和6年9月6日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

中村大尉事件に關し臧主席に調查員再派遣並びに關團長召還問題を追求について

奉天 9月6日後発  
本省 9月6日後着

第五五六五號  
往電第五六一號ニ關シ

六日本官吏ニ臧主席ヲ訪問シ約束ノ通調查員ノ報告ヲ詳細伺ヒタシト申入レタルニ臧ハ大体前回榮ヨリ申上ケタル通り極メテ簡單不得要領ナルカ調査員カ王爺廟ニ到着宿屋ニ投シタル時同宿ノ蒙古人ヨリ日本人力蘇鄂公府ニ於テ殺害セラレタリトノ噂ヲ聞キタルニ付其出所ヲ確メタル處右ハ日本新聞（多分盛京時報ナラン）ノ記事ニ基ク評判ナリト答ヘ何等手掛ヲ得ス蘇鄂公府ニ至リテハ全然何等ノ評判ス

ラナク單ニ曾テ日本人効同地ノ西方二十家子（前電二家子ハ誤リ）ニ赴キタルコトアリト聞キタルヲ以テ同地ニ至リ取調ヘタルモ何等ノ噂モナク無意味ニ引返シ甚々遺憾ニ存スト答ヘタリ

次イテ本官ヨリ再調査員派遣及關團長呼寄セノ議ハ如何ニ決定セリヤト尋ネタルニ臧ハ榮臻出發前軍法官吳某ニ特務憲兵二、三名ヲ附シ六日出發セシムル腹案ヲ定メ北平ニ急行シテ此旨張副司令ニ報告シタルニ副司令ハ吳軍法官ノミニテハ不安心ニ付別ニ有能ナル人物一名ヲ選ヒ吳ト同行セシメヨトノ命令アリタル旨唯今電話アリタリ一方關團長ハ右再調査員一行現地到着前ニ任地ヲ離レシムル必要アル處召還電報ヲ發スルトキハ警戒心ヲ起サシムル虞アルニ付特使ヲ派シ適當ナル口實ヲ構ヘ關ヲ他地ニ誘キ出シ更ニ方法ヲ講シテ奉天ニ連レ出ス計畫ニテ右特使ハ既ニ奉天ヲ出發セリト語レリ

尙臧ハ餘談トシテ先刻北平ニ在ル榮臻ヨリノ電話ニ依レハ張副司令ヨリ本件ニ對シテハ公明正大ナル態度ニテ嚴重眞相ヲ調査スル様命令アリタリト述ヘタリ

哈爾賓ヨリ齊齊哈爾へ轉電アリタシ

支、北平、南京、齊齊哈爾、鄭家屯、哈爾賓へ轉電セリ

319 昭和6年9月8日 在奉天林總領事宛（電報）

公使、北平、南京ニ轉電セリ

湯爾和に中村大尉事件解決の遷延は日本の世論に刺激を与えると談話について

本省 9月8日後11時25分後発

第一八五號（暗、極秘扱、至急）

五日湯爾和本大臣ヲ來訪ノ際同人ハ張學良及臧式毅ニ対シ中村事件調査ノ遷延ハ日本人心ヲ尖銳化シ重大ノ結果ヲ招

來スル虞レアル旨ヲ具申シ置キタル処二日臧ヨリ調査員ハ行動ヲ秘スル必要アル關係上報告遲レ居ルモ自分等ニ於テ故意ニ遷延ヲ圖ル如キ意思全然ナシトノ趣旨回電アリ又之ト前後シテ學良ヨリモ自分ハ未タ事實ヲ知ラサルモ決シテ回護。（曲庇ノ意）スルコトナシトノ回電アリタリト述ヘタルヲ以テ本大臣ハ右學良ノ態度ハ至極結構ナルモ實際上遷延シ又ハ結果力不満足ナルニ於テハ日本ノ輿論ハ大ナル刺戟ヲ受クヘキコトヲ篤ト考慮セサルヘカラサル旨ヲ説示シ置タリ

320 昭和6年9月8日 在奉天林總領事宛（電報）

公使、北平、南京ニ轉電セリ

中村大尉事件解決に中國側の態度不誠意ならば我が方の對東北關係に悪影響を及ぼすべき旨警告方にについて

本省 9月8日後11時30分発

第一八六號（暗、極秘扱、至急）

貴電第五六一號ニ關シ

支那側ノ態度ハ甚々不都合ナル處元來我方ニ於テハ支那側カ事實ヲ否認シ又ハ交渉ヲ遷延スルカ如キ態度ニ出テサル限り本件ノ「メリット」ニ從ヒ地方的問題トシテ往電第一七八號ノ要求條件ヲ以テ之力迅速解決ヲ計リ大局ノ紛糾ヲ防カムトスルモノナルモ萬一支那側ニ於テ前記ノ如キ誠意ナキ態度ヲ以テ終始スルコトアラムカ問題ハ單純ナル本邦人殺害事件タルニ止マラス進シテ本件ニ對スル支那側態度ノ不誠意ナルコトハ更ニ我方對東北ノ關係ニ重大ナル惡影響ヲ釀スヘキヲ恐ル



同地方ニ關シ特別ノ注意ヲ拂ヒ出セル形跡アル趣ナルノミナラス本邦新聞社中ニハ洮南齊々哈爾方面ニ特派員ヲ派遣シ種々情報ノ蒐集ニ努メソツアル向モアルニ付此際陸軍拓務兩省トモ御協議ノ上中村事件ノ證據ニ關スル限り内地及殖民地全體ニ亘リ新聞掲載禁止方御發令相成ル様致シタシ何分ノ儀至急御回電アリタシ

右特務機關ト打合セ濟

關東長官、朝鮮總督へ轉電セリ

323 昭和6年9月9日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

張學良に中村大尉事件遷延の意向ない旨の榮

參謀長談話について

奉天 9月9日後発  
本省 9月9日後着

第五七五號

榮參謀長八日夜歸任風邪引籠中ナルモ九日朝押シテ往訪ノ森岡ニ會見左ノ通リ内話セリ何レ本官一兩日中又會見ノ筈ナルモ不取敢

關團長說得連出シニ關シテハ同人ト友人關係ヲ有スル司令部附少將王致中ヲ五日朝出發セシメ六日晚出發ノ吳軍法官一行（特務憲兵一名帶同）カ現地到着調査ノ際邪魔ヲサレサル様手配命令シ尙關團長力現任地ヲ去ル時ハ其旨直ニ電報方指圖シ置キタリ

張副司令モ本件ヲ頗ル重大視シ過般ハクジヨウシ（洮安）ニ在ル關ノ上官エントウタイヲ態々北平ニ呼寄セ事情ヲ質ネラレタルノミナラス自分ニ對シテモ速ニ真相ヲ調査シ公正處理方ヲ命セラレタル位ニテ決シテ故意ニ誤魔化シ又ハ政策的ニ引延ハシ居ルカ如キ事情斷シテ之レ無シ

尙張副司令ノ意見ニ依ル別ニ有力ナル調査員一名派遣方ニ關シテハ明日中二人選ヲ了ヘ現地ニ派遣ノ上吳法官ト協力セシムル積ナリ

公使、北平、南京、齊齊哈爾、哈爾賓、鄭家屯へ轉電セリ

324 昭和6年9月9日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

中村大尉の拘禁日および銃殺日の決定を陸軍側希望について

奉天 9月9日後発  
本省 9月9日後着

第五七六號（暗）

陸軍側ニ於テ人事並事務整理上中村大尉ノ拘禁日ヲ六月廿七日銃殺日ヲ七月一日ニ決定シ度キ趣ヲ以テ本官ノ意見問合セアリタルニ付承諾シ置キタル處交渉上ノ都合モアリ外部ヘノ發表ハ當分差控ヘラル様陸軍省ト御打合アリタシ

325 昭和6年9月9日 在中國永津公使館附武官補佐官より  
杉山陸軍次官宛（電報）

張學良絶対無抵抗主義を訓令との情報について

北平 9月9日後発  
陸軍省 9月9日後着

北電第八七二號（秘）

中村事件ノ爲メ榮臻及洮索鐵路局長張魁恩モ先日來來平中ナリシカ八日奉天公安局長及衛隊旅長等モ張學良ニ招致セラレ何事力指示セラレシカ柴山顧問ノ支那要人ヨリ聞クノニ依レハ奉天ニ於テハ萬一ノ場合ヲ顧慮シ態度ヲ決定シタルモノニシテ絶対無抵抗主義ヲ採ル様訓令セラレタルカ如

第一九〇號（暗）

貴電第五七〇号及第五七四号ニ関シ

目下ノ模様ニテハ内地新聞ニ於テ是以中村事件證據ノ点ニ付突キ進ミタル記事ヲ掲クルコトナキ思考セラルル處貴電御申越ノ次第ハ尤モト存スルニ付篤ト關係省ト協議ヲ遂ケタルカ前記ノ如キ事情ニモ顧ミ此際掲載差控方新聞側ニ懇談スルトキハ（掲載禁止命令ヲ發スルコトハ從来ノ取扱振ニモ顧ミ新聞紙法上困難ナル趣ナリ）再ヒ新聞側ノ注意ヲ刺戟シ却テ面白カラサルモノト認メラルニ付今後關係省各方面ニ於テ證據ニ関スル情報ハ一切之ヲ出ササルコトトスルハ勿論其ノ他新聞カ右關係記事ヲ掲載セサル様

仕向クル程度ニ止ムルコトトナリタリ就テハ貴地特務機関ト御連絡ノ上貴方面軍部ニ於テモ右様趣旨ニ基キ行動スル様御打合アリタク又関係各地領事ニモ同様通報アリタシ軍部ト打合濟

朝鮮總督関東長官ニ轉電セリ

~~~~~

327 昭和6年9月10日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

中国人証人の斡旋につきチチハル領事より報告

奉天 9月10日前發  
本省 9月10日後着

第五七七號

齊々哈爾發本官宛電報第一九號ノ一  
大臣宛貴電第五六四號ニ關シ

佐藤ハ當館ノ意ヲ體シ七日夜霍（以下霍トアルハ霍富元ヲ指ス）ト秘密ニ會合シ同人カ我方ノ爲ニ證人トナルコトニ付極力勸說シタルモノ同人ハ將來ニ希望ヲ有シ日蔭者トナルヲ好マサルモノノ如ク種々事情ヲ訴ヘ佐藤ノ申入レヲ受諾シ能ハサル旨且其代リニ當人ヨリモ事情ヲ好ク知リ居リ且

度胸モアリ自分ヨリ勸說スレハ喜ソテ證人タルコトヲ引受クヘキニ付同人ニセラレタシ」ト答ヘタリ佐藤ハ郭振永ノ人物其他ニ關シ詳細霍ニ尋ヌルト同時ニ霍カ果シテ約束通り同人ヲ連レ出しシ來ルヤ否ヤヲ確カメタル上霍ノ言ヲ容レ郭振永連レ出シ方同人ニ依頼シタリ霍ハ昨八日朝當地發歸蒙シ一週間後即十五日頃ニハ郭振永ヲ連レ再ヒ當地ニ來ル豫定ナリ

齊々哈爾發本官宛電報第一九號ノ二

佐藤ハ證人連レ出しシノ外ニ蒙古人ヲ雇ヒ中村一行ノ遺骨又ハ遺骸ノ所在搜查及證據品ノ蒐集ヲモ依頼シ霍ハ之ヲ快諾セリ

佐藤ハ見ル處ニテハ霍ハ佐藤ヨリ證人タルコトヲ勸說セラレタルトキハ何トナク憂色アリンモ佐藤カ「然ラハ郭振永ヲ間違ナク世話シ吳レ」ト申入ルルヤ同人ハ喜色ヲ現ハシ必ス周旋スヘシト述ヘ其ノ言ニ信賴シ得ル語氣態度ヲ示シ

タル由ニテ佐藤ハ霍力郭振永ヲ連レ來ルコトハ間違ナカルヘシト申シ居レリ

當地情報ノ新聞紙ニ洩ルハ陸軍側ヨリニアラスマヤト疑ハルル點アルヨリ前記證人抱込ノ見込付ク迄ハ佐藤ハ本件計劃ヲ何處ニモ電報セサルコトヲ希望シ居ルニ付佐藤ノ立場ヲ考慮シ本電内容當分陸軍側ニモ御洩シナキ様相願ヒタシ大臣ヘ轉電アリタシ

~~~~~

328 昭和6年9月10日 在中國矢野公使館參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）

張学良が中村大尉事件には誠意をもつて折衝すべき旨を陳・宋に指示と柴山顧問談話について

北平 9月10日後着

本省 9月10日後着

第三九〇號

柴山顧問歸奉挨拶ノ爲九日學良ト面會セルカ其際學良ハ次ノ如ク内話セル由（尙中村事件ニ付テハ右會見前ノ當方トノ打合セニ基キ此際速力ナル解決ヲ計ル事機宜ニ適スト思考スル旨陳述シ置ケル由）

獨身ニシテ係累ナク證人トシテ最モ適當ノ人物アルニ付之ヲ周旋スヘシト申出テタリ佐藤ハ霍ニ其何人ナルヤヲ尋ネタルニ霍ハ「河北人ニシテ郭振永ト呼フモノ馬賊ヲ働キ居リタルモノナリ目下民安鎮ノ自分ノ許ニ潛伏シ居リ同人ハ度胸モアリ自分ヨリ勸說スレハ喜ソテ證人タルコトヲ引受クヘキニ付同人ニセラレタシ」ト答ヘタリ佐藤ハ郭振永ノ人物其他ニ關シ詳細霍ニ尋ヌルト同時ニ霍カ果シテ約束通り同人ヲ連レ出しシ來ルヤ否ヤヲ確カメタル上霍ノ言ヲ容レ郭振永連レ出シ方同人ニ依頼シタリ霍ハ昨八日朝當地發歸蒙シ一週間後即十五日頃ニハ郭振永ヲ連レ再ヒ當地ニ來ル豫定ナリ

齊々哈爾發本官宛電報第一九號ノ二

佐藤ハ證人連レ出しシノ外ニ蒙古人ヲ雇ヒ中村一行ノ遺骨又ハ遺骸ノ所在搜查及證據品ノ蒐集ヲモ依頼シ霍ハ之ヲ快諾セリ

佐藤ハ見ル處ニテハ霍ハ佐藤ヨリ證人タルコトヲ勸說セラレタルトキハ何トナク憂色アリンモ佐藤カ「然ラハ郭振永ヲ間違ナク世話シ吳レ」ト申入ルルヤ同人ハ喜色ヲ現ハシ必ス周旋スヘシト述ヘ其ノ言ニ信賴シ得ル語氣態度ヲ示シ

一、中村事件ニ關シテハ過日招致セシ榮臻ニ對シ將來減式毅ト共ニ誠意ヲ以テ折衝スヘク命シ置ケリ近ク何等カノ結果ヲ得ヘシト信ス

二、部下一般ニ對シ此際日支交渉案件ニ關シテハ特ニ誠意ヲ以テ當リ小事件ハ出來得ル限り讓歩スヘシト訓令シ置ケリ

三、部下軍隊ニ對シ此際特ニ輕舉ヲ戒メ置ケリ

四、東北ト北支トヲ間ハス余ノ管轄内ハ民衆ノ排日的行爲ヲ嚴ニ取締ル考ナルカ北支ニハ黨部トノ關係上充分ニ徹底シ難キ憾アルヲ遺憾トス

五、余ノ病氣モ主治醫ノ談ニ依レハ後三、四週間ヲ經過セハ全然舊態ニ復スヘシトノ事故歸奉ハ何レ其後ノ事ナリ

支、奉天、南京へ轉電セリ

~~~~~

329 昭和6年9月10日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

臧主席と宋參謀長に中村大尉事件の重大性を警告し宋は事實関係を大略承認について

第五八二號  
往電第五七五號ニ關シ

奉天 9月10日後發  
本省 9月11日前着

本官十日臧主席及榮參謀長ニ會見シ北平ニ於ケル榮ト副司令トノ相談ノ模様並ニ今後ノ方針等説明ヲ求メタル處榮ハ九日森岡ニ對スルト同様ノ話ヲ繰返シタルヲ以テ本官ハ貴電第一八六號前段ノ趣旨ニ依リ事件ノ重大性ヲ強ク印象セシムルニ努メタル後進ソテ同電後段ノ御意見ヲ參酌シ中國側ニ於テアツサリ事實ヲ承認スルニ於テハ中日親善ノ精神ヲ体シ謝罪處罰損害賠償及將來ノ保障位ニテ解決スル見込ナルモ之ニ反シ飽迄事實ヲ否認スルカ如キコトアリトセハ意外ナル結果ヲ誘發スヘク本官ハ敢テ臧主席及榮參謀長等ノ誠意ヲ疑フ譯ニハ非サルモ第一回ノ調査員カ半月餘リノ時日ヲ費シ乍ラ何等得ル處ナカリシ結果現ニ本國政府ニ於テハ奉天當局ノ誠意ニ對シ鮮カラス疑ヲ挾ミ居ル次第モアリ萬一第二回ノ調査力又々長引クニ於テハ中國側ハ政策上故意ニ責任ヲ回避セルモノナリトノ批難ヲ免レサルニ至ルヘク就テハ誠意ヲ示ス上ニ於テ調査員ヲ督勵シ至急調査ヲ

促進スルト共ニ關團長ノ如キハ上官ノ威力ヲ以テ即時奉天ニ引致スルコト必要ト認ムル旨申入レタリ  
右ニ對シ榮ハ御話ノ次第ハ一々御尤モニシテ副司令以下奉天當局ハ決シテ故意ニ解消ヲ遷延シ居ル次第ニアラス副司令自身トシテモ現ニ白城子駐在袁統帶ヲ北平ニ呼寄セ事情ヲ尋ネツツアルト共ニ今明日中ニハ第二回ノ調査員モ現地ニ到着スルコト思ハルニ付間モナク何等カノ手懸リヲ得ル見込ナレハ今暫ク御猶豫願ヒタク又關團長連レ出シニ出發シタル王致中ハ昨日洮安（白城子）ヨリ關ハ既ニ任地ヲ離レタリトノ聞込アル旨電報シ來リタルニ付昨夜折返シ即時蘇鄂公府ニ赴キ事實ヲ確カメ今尙任地ニアル場合ハ連れ來ル様電命シ置キタリト答ヘタルニ付折返シ本官ヨリ關ハ事件暴露ヲ虞レ馬賊ノ群ニ投スル下心アリトノ噂アル處上官ノ命ナク勝手ニ任地ヲ去リタルコト事實トセハ職務ヲ放棄シ逃亡シタルニアラスヤト反問セルニ榮ハ此ノ際逃亡セハ自ラ殺害ノ事實ヲ認ムルコトトナルヲ以テ多分左様ノコトナカルヘク若シ逃ケタリトセハ却テ事實認定ノ證據トナルヘシト語レリ

尙本官ヨリ證人ノ氏名等ヲ留保シ拘禁及殺害ニ關スル大體

ノ事情ヲ告ケ且某外國領事モ七月中ニ蘇鄂公府方面ヲ旅行セル白露人ヨリ日本人被害ノ評判ヲ聞込ミ居ル事實モアリト述ヘテ支那側ニ於テハ之ニテモ本件カ事實ナルコトノ状況判断付カサルヤト突込ミタルニ第一回ノ調査員ハ無能ニシテ何等ノ判断ヲ付ケ得サリシモ各方面ノ狀況ヲ綜合スレハ自分モ大體事實ハ間違ナキヤニモ判断セラルト答ヘタリ支、北平、南京、鄭家屯、哈爾賓、齊々哈爾ヘ轉電セリ

………

330 昭和6年9月11日 在中國重光公使より

幣原外務大臣宛（電報）

宋子文に中村大尉事件は關係軍隊の非を認め適

当の解決をなすこと絶対に必要と談話について

上海 9月11日後發  
本省 9月12日前着

第九〇四號

十日宋子文ニ會見ノ際本使ヨリ民國新聞報道ニハ例ニ依テ無責任ナルモノアリ折角日本側ニ於テ人道上ノ精神ニ出テタル救濟事案ニ付テモ曲筆ヲ振フモノアリテ日本側ノ神經ヲ鮮カラス刺戟シ居レリ尙自分ノ遺憾ニ感スルハ蔣主席ノ

演説ナルモノニシテ公表セラレタル部分ニテモ非常ニ不都合ナルカ其ノ真相ナリトテ日本通信員等ニ依リ傳ヘラレタルモノハ一層不都合ニシテ日本ニ於ケル其ノ反響ノ大ナルヲ虞ル一國ノ主席トシテノ公表演說トシテ餘リニ不穩當ナリ且民國ニ於ケル名實トモ第一人者トシテ尊敬ト同情トヲ二字アキチ得居ル蔣氏トシテハ不謹慎ト云フノ外ナシトテ上村發閣下宛電報第五二九號中央日報記載ノ軍官學校ニ於ケル蔣主席ノ演説ナルモノノ内容ヲ一一語リタリ

宋子文ハ

右ハ充分了解セルニ付適當ノ方法ヲ執ルヘシ又水災救濟等ニ付無責任ナル民間新聞ノ記事等ハ成ルヘク氣ニ留メラレスアル様セラレタク日本側ノ救援ハ民國ノ心アル者ノ衷心ヨリ感謝シ居ル所ナル旨ヲ繰返シタル上最近日本ニ於ケル輿論ノ硬化ハ注目スヘキモノアリ軍部ノ策動ハ漸次擴大セルモノノ如ク日本ノマニ有力者ノ説明ニ依レハ經濟界ニ於テモ目下ノ不景氣ヲ救フ爲ニハ日支開戰ノ外ナシト唱フルモノアリトノコトニテスル狀勢ニ於テハ小事モ取扱方如何ニ依リテハ大事ヲ惹起スヘシ自分等ハ幣原男等ノ態度ハ充分ニ了解スルモ軍部及之ニ關係スル者ノ策動ハ懸念ニ耐エヌ閻

錫山ノ飛行機脱出ニ付テモ何等取缔リ又ハ制裁ノ加ヘラレタル形跡ナク石友三ノ使嗾其脱出援助等モ一例ナリ

トテ更ニ话頭ハ中村事件ニ至リタリ本使ハ

中村大尉事件ノ真相ヲ详细説明シ右ハ兩國ノ關係ヲ極端ニ悪化スルコトヲ避ケル顧慮ヨリ地方的ノ交渉ヲ進メ居ル次

地方官憲ニ於テ速カニ關係軍隊ノ非ヲ卒直ニ認メ適當ノ解

決ヲ爲スコト絶対ニ必要ナリ右ノ如クスレハ解決ハ容易ナリ

錫山脱出ノ問題ハ中村事件等トハ全然別問題ニシテ

右ハ日本官憲ニハ關係ナク又法律上ノ制裁ハ既ニ司法行政

權ノ發動ヲ見居ルコトト思考ストテ石友三ノ裏面ニ日本人アリトスルコトノ誤解ナルコト並ニ陳友仁ノ渡來等廣東側

ニ對スル我方ノ態度等從來ノ御來電ニ依リ充分説明シ置キタリ

宋子文ハ熟々現下ノ兩國ノ關係ヲ見ルニ不謹慎ナル輿論ヲ控ヘ如何ナル小事件ヨリ不詳事ノ勃發ヲ見ルヤモ知レス方ニ我々ハ「クライシス」ノ前ニ立チ居リ此際我々ハ充分ニ自重シテ兩國ノ爲ニ盡スコト必要ナリ

トノコトナリシニ付同感ノ意ヲ表シ置キタリ

南京、北平、奉天、青島、濟南、廣東、漢口、天津へ轉電シ上海へ轉報セリ

331 昭和6年9月11日 在中国重光公使より

幣原外務大臣宛(電報)

王外交部長の中村大尉事件否認に関する新聞

報道に關し詳細の情況報告について

上 海 9月11日後発 本省 9月11日後着

第九〇六號

南京發閣下宛電報第五二三號ニ關シ

十一日上村來滬シ本件ニ關シ詳細ヲ報告アリタルカ参考ト

ナル點左ノ通

三日王部長トノ共同會見ニ出席シタルハ中國側ハ部長ノ外

通譯トシテ范漢生一人記者側ハ大毎(岡野)朝日(千原)電通(小林)及滿洲日報(矢口)ノ四人ニテ部長ト記者側トノ間ニ種々ノ質問應答アリ問題ノ中村事件ニ關シテハ一記者ノ質問終ラサル間ニ他ノ記者ヨリモ質問アリ部長ノ答辯ハ何レノ質問ニ對シテナサレタルモノナリヤ明瞭ナラサ

三日王部長トノ共同會見ニ出席シタルハ中國側ハ部長ノ外通譯トシテ范漢生一人記者側ハ大毎(岡野)朝日(千原)電通(小林)及滿洲日報(矢口)ノ四人ニテ部長ト記者側トノ間ニ種々ノ質問應答アリ問題ノ中村事件ニ關シテハ一記者ノ質問終ラサル間ニ他ノ記者ヨリモ質問アリ部長ノ答辯ハ何レノ質問ニ對シテナサレタルモノナリヤ明瞭ナラサ

リシ節アリタル位ナリシ由ナルカ從テ出席セル四人トモ王部長カ中村事件ヲ否認セリトセハ(脱?)電報セサリシ次第ナルカ偶々千原カ聯合佐々木ト會ヒタル際王部長ハ共同會見ニテ中村事件ヲ事實無根ナリト聲明シタル旨話シタル

ニ依リ佐々木ハ重大事件ナリトテ直ニ其旨電報セリ右電報ニ依リ朝日ハ本社ヨリ眞相取調ヘ方ノ電命アリタルニ依リ千原ハ王部長ニ會見ヲ申込タルニ部長ノ都合付カストノコトナリシ爲范漢生ヲ往訪シ范ノ記憶ヲ確カメタル處范ハ王部長ニモ確力メス宣傳的ノ態度ニテ勿論王部長ハ中村事件ヲ否認セリト述ヘ其間議論トナリタル爲范ハ日本ノ浪人等

ハ何ヲスルカ分ラスト迄述ヘ立テタル趣ナリ然ルニ小林ハ是ヲ聞キ更ニ范ヲ往訪シ自分ハ會見セル者ノ中支那語ニ最

モ通シ居ルモノト確信ヲ有スル處共同會見ノ際部長ノ言葉ハ詳細速記シ居タルカ中央ヨリ調査員ヲ派遣セリヤトノ質

問ニ對シ斯ル事實ナシトハ答ヘタルコトアルモ中村事件其物ヲ否認シタルカ如キ言辭ナカリシニ付電報モ打タサリン

次第ナルカ斯ク問題トナリタル以上ハ今一應王部長ニ直接

確カメラレ度キ旨懇請セリ依テ范ハ澁々乍ラ王部長ノ許ニ赴キタルカ歸來小林ニ對シ部長ニ質シタル處部長ハ本件ハ

中村事件に対する張学良の態度公平にして數日中に円満解決の望みありと湯爾和談話について

北平 9月12日後着 本省 9月12日後着

332 昭和6年9月12日 在中国矢野公使館參事官より

幣原外務大臣宛(電報)

中村事件に對する張学良の態度公平にして數日中に円満解決の望みありと湯爾和談話について

湯爾和歸平セルニ付十一日館員ヲシテ往訪セシメタル處同人ノ内話左ノ通

一、本日張副司令ニ面會セルカ中村事件ニ對スル副司令ノ態度ハ極メテ公正ニシテ同事件ハ數日中ニ圓滿解決ノ望アリ就テハ右交渉ニ當リ林總領事ニ於テ暫ク從來通リノ態度

ヲ持續セラル様致シ度シ若シ萬一軍部ノ意見ニ聽從セラル力如キ事アラハ本件解決ハ大ナル困難ニ陷ル事ナキヤ

ヲ虞ル

二、副司令ニ（ハ）成ルヘク最近ノ機會ニ於テ内田總裁トノ會見ヲ希望シ居リ其方法時日場所等ニ就テハ目下考慮中ナルカ兎ニ角右ノ次第内田總裁ニ内報願度シ

三、本日ノ新聞ニハ自分（湯）ノ談トシテ中村事件ノ歸結如何（ハ）尙不明ナルカ日本側ハ擅ニ宣傳シテ國際ノ視聽ヲ覆ヒ居ルハ寔ニ遺憾ナリ云々ト記載シ居ルモ自分ハ右様ノ事ヲ述ヘタル事ナシ尙自分ハ當分北平ニ滯在ノ積リナリ支、南京、奉天へ轉電セリ

333 昭和6年9月12日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

中村事件要求中将来の保障につき洮南地方の解放並びに洮南領事館の開設方提議について

將來ノ保障ニ付テハ御來示ノ通邦人ニ對スル洮南地方ノ事實的閉鎖ヲ解クコトニ重點ヲ置キ併セテ諸方面ニ於ケル邦人ノ旅行ニ當リ支那側カ完全ナル保護ヲ與フヘキコトヲ要求スルハ勿論ナルモ支那側ニ於テ同地方ノ事實的閉鎖ヲ解クコトニ同意スルニ於テハ必要ノ場合ニ護衛兵ヲ附スヘキコトヲ此際特ニ約束セシムルカ如キハ却テ同地方ニ於ケル邦人ノ旅行ノ自由ヲ拘束スルノ結果ニ終ル虞アリ且現在ニ於テモ奥地地方旅行ノ際ニハ場合ニ依リ護衛ノ爲巡警等ヲ附セシメ居ル次第モ有之護衛ノ要ハ主義上ノ問題トセス實際的取計ニ委スル方得策ト認メラルニ付之ヲ持出ササルコトト致シ度シ尙可能性ノ如何ハ別問題トスルモ本件交渉ニ際シ適當ノ機會アラハ洮南領事館ノ開設ヲモ提議スルコト然ルヘシト存セラレ本官限リニ於テ右様取計フ所存ニ付御含ミ置キ相成度シ

支、北平、南京ニ轉電セリ

334 昭和6年9月14日 在中國矢野公使館參事官より  
幣原外務大臣宛（電報）

中村大尉事件解決にあたり張學良の困難なる立場について

北平 9月14日後発  
本省 9月14日後着

第三九六號

十三日「ドナルド」ノ「ゴルマン」ニ對スル内話學良ハ中村事件ノ急速解決ヲ希望シ居ルモ其意向ヲ部下軍人ノ末ノ方迄徹底セシムルコト困難ノ模様ニテ又學良ノ内蒙古軍隊ニ對スル命令權ハ日本軍部側モ了知ノ通名義上ノミニテ實際上ノ處罰等ヲ實行スルコトハ甚々困難ナル立場ニアルカ如ク學良ハ目下其解決ノ「フオーミュラ」ヲ考究中ナリ云々

何等御参考迄

公使、奉天、南京へ轉電セリ

335 昭和6年9月14日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

貴電第一七八號ニ關シ

奉天 9月12日後發  
本省 9月12日後着

第五八九號

中村大尉事件

361

中村大尉事件第二回調査員の現地出発に関する劉哲の内話について

奉天 9月14日後發  
本省 9月14日後着

第五九二號

中村事件ニ關シ十四日劉哲カ森岡ニ内話セル處左ノ通陳興亞ハ憲兵二十名ヲ率ヒ十三日朝出發蘇鄂公府ニ向ヘリ第一回ノ調査員カ極メテ無能ナリソニ鑑ミ更ニ有力ナル人物ヲ派遣セヨトノ副司令ノ意向モアリ喊、榮兩人ヨリ政務委員會ニ相談アリタル結果自分カ陳ヲ推薦シタル次第ニテ今回ハ充分真相ヲ突止メ得ル見込ナリ尙日本新聞ハ中國側カ故意ニ遷延シ居ルカ如クニ騒キ立ツルモ右ハ不當ノ宣傳ト言フヘク中國側ハ誠心誠意調査ヲ急キツツアルヲ以テ御諒解アリタク林總領事ノ談ニ依ルモ日本カ事實ヲ認定スル迄ニハ調査ニ一ヶ月ヲ要シタル趣ニモアリ總領事ヨリ交渉ヲ受クル迄何等知ル處ナカリシ中國側トシテモ調査ニ相當ノ時日ヲ要スルハ已ムヲ得サリシ處ナリ云々

336 昭和 6 年 9 月 14 日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

中国人証人郭の動向につきチチハル領事報告

シカルヘシト申シタルニ付館員ヲ附添ハシムルコトハ中止  
シタリ右御含迄

大臣へ轉電アリタシ

齊齊哈爾發本官宛電報  
第五九四號

奉天 9 月 14 日後発  
本省 9 月 14 日後着

齊齊哈爾發本官宛電報

第二〇號

苦力頭霍ハ郭振永ヲ連レ昨十三日朝當地ニ着シタリ佐藤ハ

振永ニ會ヒタル後同人ハ我方ノ證人トシテハ霍以上ノ資格アリト小官ニ報告セリ佐藤ハ直ニ振永ノ身裝ヲ整ヘ同人ノ

「ボーア」ニ裝ヒ十三日晚當地發振永ヲ旅順ニ連レ行キタリ同人ハ十五日朝旅順着ノ豫定ナリ陸軍側ト御打合ノ上佐藤無事旅順着ノ上ハ其旨當館へ電報アリタシ佐藤ノ振永連行ニ對シ小官ハ佐藤ニ向ヒ希望トアラハ當館館員署員中ノ何人ニテモ同行サセ差支ナキ旨申聞ケタル處同人ハ振永ノ様子ヲ見ルニ途中逃亡ノ惧ナク又領事館員ヲ同行スル時ハ支那側ノ注意ヲ惹ク惧モアルニ付同人一人ニテ連行ク方宜

337 昭和 6 年 9 月 14 日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

榮參謀長が中村大尉殺害の事実を承認と談話

について

往電第一九號ニ關シ  
苦力頭霍ハ郭振永ヲ連レ昨十三日朝當地ニ着シタリ佐藤ハ

振永ニ會ヒタル後同人ハ我方ノ證人トシテハ霍以上ノ資格アリト小官ニ報告セリ佐藤ハ直ニ振永ノ身裝ヲ整ヘ同人ノ

「ボーア」ニ裝ヒ十三日晚當地發振永ヲ旅順ニ連レ行キタリ同人ハ十五日朝旅順着ノ豫定ナリ陸軍側ト御打合ノ上佐藤無事旅順着ノ上ハ其旨當館へ電報アリタシ佐藤ノ振永連行ニ對シ小官ハ佐藤ニ向ヒ希望トアラハ當館館員署員中ノ何人ニテモ同行サセ差支ナキ旨申聞ケタル處同人ハ振永ノ様子ヲ見ルニ途中逃亡ノ惧ナク又領事館員ヲ同行スル時ハ支那側ノ注意ヲ惹ク惧モアルニ付同人一人ニテ連行ク方宜

第五九五號

中村事件ニ關シ

榮參謀長ハ十四日森岡ニ左ノ通り内話セリ

關團長說得連出シニ關シ蘇鄂公府ニ赴キ十三日歸來セル王致中ノ報告ニ依レハ殺害ノ事實ハ間違ナシト認メラレ殺害ニ關スル經過ハ追テ吳軍法官ノ調查報告及關團長訊問ノ結果ニ依ラサレハ正確ナルコト判明セサルモ王ノ聞込ミタル處ニ依レハ第三團ハ中村一行ヲ捕ヘ數日間優遇シ居リタルニ（團部ヨリ食事ノ爲外ニ連出シタル事實アルモ腕ヲ縛リ

タル事實ナシト云フ）一行何故力逃走シタルヲ以テ軍隊力之ヲ追ヒカケ殺害シ死骸ハ燒棄シタルモノノ如シト云フ自分及臧主席共本件ニ關シテハ終始誠心誠意ヲ以テ交渉ニ應シ來レルニ拘ラス第一回ノ調査員力絶対秘密調査内命ヲ受ケタル爲實際上何等ノ結果ヲ得サリシ關係上日本各新聞ハ自分等力故意ニ事實ヲ隱蔽セルカ如クニ宣傳セルハ甚タ遺憾ニシテ自分等ノ公正ナル態度ハ充分御了解願ヒ度シ尙關團長ハ監視員附添ニテ三日以内ニ奉天ニ到着スル筈ニテ同人ハ今尙事實ヲ否認シ居リ王致中ハ一足先ニ歸リタル次第ナリ

公使、北平、南京、哈爾賓、鄭家屯、齊々哈爾へ轉電セリ

338 昭和 6 年 9 月 15 日 在奉天林總領事宛（電報）  
幣原外務大臣より

中村大尉事件交渉を機に洮南領事館開設を図る

は機宜に適するを以て実現に向け努力方訓令

第一九三號（暗、至急、極秘級）

貴電第五八九号ニ関シ

339 昭和 6 年 9 月 15 日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

中村大尉事件中国人証人郭の瀋陽着について

奉天 9 月 15 日後発  
本省 9 月 15 日後着

第五九九號

本官發齊々哈爾宛電報第一四號

貴電第二〇號ニ關シ

佐藤郭同伴十五日着奉陸軍側ト打合セノ結果郭ハ當地特務機關事務所内ニ留メ置クコトトセリ

外務大臣ヘ轉電セリ

340 昭和6年9月16日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

中国人証人郭の答弁振りに關する打合せにつ

きチチハル領事報告

奉天 9月16日前發  
本省 9月16日後着

齊々哈爾發本官宛電報

第六〇〇號

往電第二〇號ノ一ニ關シ

郭振永ハ證人トシテ呼出サレタル場合同人ノ民安鎮ニ於ケル（一）居住期間（二）居所（三）職業（四）出發月日ニ關シ如何ニ答辯スルコトトナリ居ルヤニ付鈴木ヲシテ霍富元ニ尋ねシメタル

處富元ハ（一）事實ヲ述ヘ（二）（三）ニ付テハ事實ヲ述フルトキハ同人ニ禍ヲ及ホス虞アルニ付振永ハ野菜行商ヲ營ミ安宿ヲ尋ネ轉々宿泊シ來リ中村等ノ捕縛セラレタル當日ハ三號舍ノ前ニ在リテ捕縛ノ事實ヲ目擊セリト答辯スルコトニ振永ニ言含メアリト答ヘタリ鈴木ハ小官ノ意ヲ体シテ霍ニ向ヒ證人訊問ノ際支那側ニ於テ問題ニ關係ナキ質問ヲ發スル時ハ立合ノ日本側ニ於テ之ヲ阻止スヘキモ前記ノ諸點ハ之ヲ阻止シ得サル處振永力其居所ヲ偽ル時ハ支那側ニ於テ日本側ハ證人ヲ偽造シ來レリト唱ヘ一蹴スルコト明カニシテ其場合振永ハ證人トシテ價值ナキモノトナルニ付「振永ハ富元ノ下ニテ土堀リヲナシ居リタルモノニシテ本月十日頃逃亡セルモノナルコト」ニ同意セラレタント申入レタルニ霍ハ支那ノコトハ道理ニ依リ處理サレサルカ故ニ振永力霍ノ所ニテ勵キ居リタリト答辯スルコトトナラハ富元如何ニ辯明スルモ三團ニテハ承知セス殊ニ富元ハ三團ニ對シ建築請負代未收三千元アルニ付同團ニテハ之ヲ機會ニ借金ヲ踏倒サント（脱）旁々同人ヲ極刑ニ處スルコト明カナレハ同人ノ名前丈ハ引出サレサルコトニセラレタント懇願セリ依テ鈴木ハ小官委任ノ範圍内ニテ

齊々哈爾發本官宛電報  
第二三號ノ二

341 昭和6年9月16日 在中國重光公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

土肥原大佐の言動並びに新聞報道は中國側の逆宣伝に利用される恐れあり注意喚起方にについて

上海 9月16日後着  
本省 9月16日後着

第九五〇號

（本電部外極秘）

中村事件ニ關スル交渉方針並外務軍部兩出先官ノ關係ハ閣下發奉天宛電報第一六一號及第一六二號ノ如ク承知シ居ル處十六日東京發通信ハ土肥原大佐ハ陸相ノ重要訓令ヲ受取リタルカ其内ニ出先官憲間ノ支援方法、奉天側ニ傳達スヘキ軍部ノ方針實力解決ノ場合ノ行動乃至滿蒙懸案解決ニ對スル側面行動等ヲ含ミ其結果關東軍ト特務機關ノ強硬態度ト自由裁量ノ範圍擴大セラレタルコト並土肥原ハ車中談トシテ「今後ハ領事トノ了解アレハ直接民國側ト交渉シ得ルコトトナレリ」ト述ヘタル趣ヲ報シ居ル處前記方針並軍部トノ關係ハ今日ノ交渉ノ狀態ノ下ニ於テ前顯電報兩部ノ協議ニ基キ右ノ如ク變更セラレタル次第トモ思ハレサルモ此

三 中村大尉事件

大臣ヘ轉電アリタシ

間後ニハ來齊々ハ豫定

ムル爲早崎書記生ヲシテ會見セシムルコトニ取極メタリ

タリ今十五日日暮ルルヲ待チ前記鈴木トノ話ヲ確カメシ申シタルニ付鈴木ハ此上霍ヲ口説クモ成功ノ見込ナシト諦メ同人ニ向ヒ成ル可ク速ニ「李」ヲ連來ルコトヲ依頼シ

霍ハ明十六日朝當地發途中鎮東ニ一泊入（蒙）ノ上約一週

大臣ヘ轉電アリタシ

三 中村大尉事件

- 頃外交當局ニアラサルモノノ無責任ナル言動多ク中村事件等ニ關聯シ折角我方ニ有利ニ展開シツアリタル一般外國人ノ議論モ日本ノ強硬論ハ軍部其他一部ノ爲ニスル宣傳ニ過キストスルニ傾キ來リ民國側ノ逆宣傳ニ有利ノ空氣醸釀ノ傾向アリ前記通信報道ノ如キハ中國側及外國側ハ勿論出先官憲相互ノ誤解ヲ來ス次第ナレハ適宜是正方御配慮ノ要アルヘク思考セラル
- 北平、奉天、南京へ轉電セリ
- 342 昭和6年9月16日 在中國矢野公使館參事官より 廣原外務大臣宛（電報）
- 張學良が中村大尉事件を迅速かつ地方的に解決の意向表明について
- 北平 9月16日後発 本省 9月16日後着
- 第四〇三號（極秘） 貴電第八〇號ニ關シ
- 奉天ニ於ケル交渉振ニ徵シ此際本官ヨリ張學良ノ注意ヲ喚起スル必要ナキヤニモ思ハレタルモ爲念十六日同人ニ面會

- シ大臣ノ訓令ニ依ル旨ヲ前置シ冒頭貴電ノ趣旨ニ依リ本件ノ地方的圓滿迅速解決ノ必要アル旨懇說シ副司令ノ深甚ナル注意ヲ喚起スルニ努メタル處張ハ本件ヲ頗ル重大視シ居ルコトハ東北側ノ執リ居レル措置ニ依リテモ御諒察ノ通ナルカ事實判明ノ上ハ誠意ヲ以テ迅速且地方的ニ解決シタキ意嚮ナリ唯何分ニモ現在迄證據充分ナラサルカ關團長モ近ク奉天ニ呼寄セ訊問スヘク又陳興亞モ歸來シ事情ノ判明ヲ期待シ居レルモ若シ此際日本側カ有スル證據ノ提出ヲ得ハ非常ニ好都合ナリト答ヘタリ本官ハ本件ノ交渉解決方ハ林總領事ニ於テ折角盡力中ナレハ證據提出等交渉ニ屬スル點ハ同總領事ノ裁量ニ委スル外ナキ次第ナルカ自分ハ中國側カ誠意ヲ以テ搜索セハ證據ノ蒐集ハ困難ナラサルヘク旁本件ヲ迅速ニ調査解決スル様此際更ニ奉天當局ニ對シ督促方電報セラレタキ旨申入レタル處張之ヲ承諾セリ
- 尙陽<sup>（尚）</sup>爾和ハ同日往訪ノ館員ニ對シ中村事件ハ特別ノ事情發生セサル限り陳興亞ノ歸來ヲ待テ解決セラルル事ト思考スル旨語レル由
- 支、南京、奉天へ轉電セリ

- 343 昭和6年9月16日 在奉天林總領事より 廣原外務大臣宛（電報）
- 榮參謀長より閔團長瀋陽着憲兵司令部に身柄拘束中と通知について
- 奉天 9月16日後発 本省 9月16日後着
- 第六〇二號 往電第五九五號末段ニ關シ
- 關團長十六日到着當地憲兵司令部ニ身柄ヲ預リタル旨榮參謀長ヨリ通知アリタリ
- 支、北平、南京、哈爾賓、齊々哈爾、鄭家屯へ轉電セリ
- 344 昭和6年9月16日 在南京上村領事より 廣原外務大臣宛（電報）
- 王外交部長が中村は個人的資格で旅行中であり地方的に解決と談話について
- 南 京 9月16日後発 本省 9月16日後着

- シ大臣ノ訓令ニ依ル旨ヲ前置シ冒頭貴電ノ趣旨ニ依リ本件ノ地方的圓滿迅速解決ノ必要アル旨懇說シ副司令ノ深甚ナル注意ヲ喚起スルニ努メタル處張ハ本件ヲ頗ル重大視シ居ルコトハ東北側ノ執リ居レル措置ニ依リテモ御諒察ノ通ナルカ事實判明ノ上ハ誠意ヲ以テ迅速且地方的ニ解決シタキ意嚮ナリ唯何分ニモ現在迄證據充分ナラサルカ關團長モ近ク奉天ニ呼寄セ訊問スヘク又陳興亞モ歸來シ事情ノ判明ヲ期待シ居レルモ若シ此際日本側カ有スル證據ノ提出ヲ得ハ非常ニ好都合ナリト答ヘタリ本官ハ本件ノ交渉解決方ハ林總領事ニ於テ折角盡力中ナレハ證據提出等交渉ニ屬スル點ハ同總領事ノ裁量ニ委スル外ナキ次第ナルカ自分ハ中國側カ誠意ヲ以テ搜索セハ證據ノ蒐集ハ困難ナラサルヘク旁本件ヲ迅速ニ調査解決スル様此際更ニ奉天當局ニ對シ督促方電報セラレタキ旨申入レタル處張之ヲ承諾セリ
- 尙陽<sup>（尚）</sup>爾和ハ同日往訪ノ館員ニ對シ中村事件ハ特別ノ事情發生セサル限り陳興亞ノ歸來ヲ待テ解決セラルル事ト思考スル旨語レル由
- 支、南京、奉天へ轉電セリ

- 在支公使發閣下宛電報第九三八號ニ關シ
- 十六日王外交部長ハ日本記者團トノ共同會見ニ於テ大要左ノ通述ヘタル趣記者側ヨリ内報アリタリ
- 一、七日ノ記念週ニ於ケル蔣主席ノ演說ニ關シ日本新聞ニ兎角ノ報道アル處自分カ直接聽取セル處ニ依レハ主席ハ廣東政府ト帝國主義者ト勾結セリト言ヘルノミニテ帝國主義者ハ民國內ニモアリ之ヲ日本ト採ルハ曲解ナリ十四日ノ主席ノ演說ハ自分ハ缺席セルニ付何等承知セス
- 二、日本ト廣東政府トノ關係ニ付テハ外交部長トシテ何等所見ヲ述フルヲ得サルモ個人トシテハ右ノ如キコトヲ信セス但一二ノ日本人カ關係シ居ルハ事實ナルヤモ知レス
- 三、五日ノ共同會見ニ於テ自分カ中村事件ハ事實無根ナリト言明セル旨ノ日本新聞ノ報道コソ事實無根ナリ中村事件ニ付テハ自分ハ詳細ニ報告ニ接シ居ラサルニ付事件ノ内容ヲ承知セスト云ヘルノミ自分ノ了解セル處ニ依レハ中村ナル人物ハ日本ノ代表又ハ駐在武官ト稱セラルヘキ公人トシテニハ非スシテ單ニ個人的資格ノ旅

行者ニ過キサルカ如ク從テ本件ハ國際公法的問題ニ非  
ス從テ地方ハ許サレタル權限内ニ於テ地方的解決ヲ見  
ルヘク若シ一度其權限ヨリ逸脱セハ中央ノ問題トナル  
ヘシ若シ正規軍力慘殺シタルモノトセハ軍法ニ依リ嚴  
重ニ處斷スヘキナリ

支、北平、奉天、廣東ニ轉電セリ

支ヨリ上海ニ轉報アリタシ

345 昭和6年9月17日 币原外務大臣より  
在奉天林總領事宛（電報）

本省 9月17日後9時35分発

陸軍側に中村大尉死亡日の決定には不同意と

回答について

第一九五號（暗、至急、極秘級）

貴電第五七六号ニ閲シ

陸軍側ヨリ當方ニ對シテモ死亡ノ日ヲ七月一日ニ決定スル

コトニ同意ヲ求メ來リタルニ付當方ニ於テハ

(一)右死亡日決定ハ民法上ノ手続等ノ為メ之力必要アル次第  
ナルヘキ處支那側ノ調査ニ依リ近ク中村死亡ノ確実ナル日

今日ニテモ既ニ三團ニ睨マレ居ルニ付此上振永カ自分ノ所  
ニ居リタリト言明セハ自分ハ銃殺サルユコト明カナルニ付  
自分ノ所ニ居リタルコトハ絕對ニ言明セシメラレサル様取  
計ハレタク又自分方ニ同居セシコトヲ明サストモ土粘リヲ  
業トシ居タリト言ハハ土粘リヲ雇ヒ居ルハ目下自分ノ所ノ  
ミナレハ之モ亦言ハシメラレサルコトニ願ヒタシ要スルニ

振永ノ居所職業ハ是非鈴木ニ話シタル通野菜ヲ商ヒ轉々安  
宿ニ泊リ廻リ居リタルコトニセラレタシ其代リニ中村事件  
ヲ自分同様ニ目擊シ居リ且ツ其居所職業等ヲ打明ケ差支ヘ  
ナキ李ヲ連レ出シ來ルヘシト申出テタル由ナリ霍ノ右申出  
ノ前段ハ當方トシテハ迷惑至極ノコトナルモ他面同情スヘ  
キ點アルニ付振永ヲ證人ニ引出ササル場合ニハ其居所職業  
等ニ付テハ霍ニ累ヲ及ホシ又ハ及ホス虞アル言動ヲ爲サシ  
メラレサル様相願ヒタシ此點小官ノ見ル點ニテハ振永ヲシ  
テ野菜行商云々ト全然虛偽ノ居所職業ヲ語ラシムルヨリモ

其氏名ヲ郭振永以外ノモノニ變ヘシメタル上「自分ハ何時  
ヨリ何時迄民安鎮ニ居住セシモ其ノ居所職業ハ他ニ迷惑ヲ  
及ホスニ付打明ケ難シ」ト卒直ニ陳述セシムル方宜シカラ

スヤト思考ス（變名セサルトキハ狹キ民安鎮ノコト故直ニ  
判明スヘキヤニ思考セラル折柄我方限リ一旦七月一日ト  
決定スルトキハ故ラ之ヲ外部ニ發表セサルモ官報等ニ掲載  
セラレ自然新聞ニモ現ル結果交渉ニ支障ヲ及ホス虞レア  
リ

(二)此ノ際冒頭貴電等ヲ基礎トシテ早急ニ死亡ノ日時ヲ決定  
シ萬一後日ニ至リ右決定ニ錯誤アルコト判明スル場合ニハ  
貴官等ノ責任問題トナル虞レアリ  
等ノ理由ニ依リ此ノ際中村死亡日ノ決定ニハ同意シ得サル  
旨ヲ答へ置ケルニ付御承知アリタシ

346 昭和6年9月17日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

本省 9月17日後発

中国人証人の証言内容につきチチハル領事報告

第六〇四號

齊々哈爾發本官宛電報第二四號

往電第二三號ニ閲シ

早崎ハ十六日夜霍ト會合シタリ其際霍ハ早崎ニ對シ自分ハ

發覺ノ虞アルニ付（尙霍ハ早崎ノ間ニ對シ李ノ連出シニハ  
同人ノ匿ヒ居タル振永ト違ヒ手懷ケニ多少ノ時日ヲ要スル  
ニ付早クテ一週間遅クテ十日ヲ要スト語レル趣ナリ尙又豫  
テ抱込計畫ノ中ニアリシ三合舍ノ番頭ライギトクハ其後取  
調ノ結果張第三團長ノ妻ノ弟ナルコト判明見込ナシ以上軍  
側ヘモ御傳ヘヲ請フ

貴電合第四一四號及第四一五號ニ依レハ支那ニ於テハ略中  
村殺害ノ事實ヲ認メ來レルモノノ如キ處當館ニ於テハ御承  
知ノ通今尙證人ノ抱込、遺骨ノ所在突止メ、證據品ノ蒐集  
ニ力メ居ル次第ニ付若シ其必要ナキニ至ラハ其旨至急電報  
相願ヒタシ

大臣へ轉電アリタシ

347 昭和6年9月18日 在中國重光公使より  
幣原外務大臣宛（電報）

中村大尉事件に關する内外新聞への説明について

別電 九月十八日發在中国重光公使より幣原外務  
大臣宛第九五八号

右日本文説明

上 海 9月18日前発  
本 省 9月18日前着

## 第九五七號

上海發閣下宛電報第四八四號ニ關シ

中村事件等ニ對スル一般新聞最近ノ報道振リニ鑑ミ十七日別電第九五八號（和文）及第九五九號（英文）ノ通記者會

見談ヲ與ヘ置ケリ

別電ト共ニ上海へ轉報シ北平、天津、奉天、濟南、青島、南京、九江、漢口、廣東、香港ニ轉電セリ

## （別 電）

上 海 9月18日前発  
本 省 9月18日前着

## 第九五八號

最近日民兩國ノ間ニ種々ノ不愉快ナル事件起リ兩國ノ輿論ヲ刺戟シ居ルハ遺憾ナリ滿洲ニ於ケル中村大尉慘殺事件ハ右事件ノ最モ不幸ナル出來事ナリ日本政府ハ斯ル種々ノ出來事ニ對シテ最モ實際的ナル手段ニ依リ兩國ノ國交ニ支障ヲ及ボサス成ルヘク速ニ友誼的解決ニ導ヒカソコトヲ努メ

<sup>(1)</sup> 第六一一號  
中村事件ニ關シ  
十八日森岡對榮參謀長ノ會見ニ於テ榮ハ左ノ通説明セリ  
吳調査員十八日午前歸任シ報告書ヲ提出セルカ（詳細ノ説明ハ未タ之ヲ聞カス）自分（榮參謀長）カ今日迄關團長ニ付調查セル處ヲ綜合スルニ中村、井杉、支那籍露國人及蒙

果中村ハ軍事探偵ナリト告ケタルカ日本人ノコトニモアリ  
リタルヲ以テ一行ヲ團部ニ連レ行キ蒙古人ニ付訊問セル結果ニ中二燒棄ヲ命シタル結果第三團兵士ノ手ニ依リ立所ニ右命令ヲ執行シ乘馬モ亦翌廿八日ニ至リ燒棄セラレタリ  
<sup>(2)</sup> 大要右ノ通ナルカ關團長ノ正式訊問ニ關シテハ特ニ軍法會議ヲ開ク筈ニテ議長ノ人選方ト共ニ十七日張副司令宛電報ニテ請訓セルヲ以テ指令アリ次第訊問ヲ開始スヘク證據品トシテ關團長力持來セル前記手帖及地圖ニ付テモ充分研究スル積リナルカ右手帖ノ内容（榮ハ手帖二冊ヲ森岡ニ示シタルカ地形物資等ニ詳細ナル記述及見取圖アル外所々ニ作戰上ノ意見ヲモ記入シ其ノ他旅費ノ計算携帶品等ニ關シテモ詳細ニ認メアリタリ）ニ關シテハ國防ニ關スル機密ノ部分ヲ除キ追テ公表シタントモ考ヘ居レリ云々

各方面ニ追捕隊ヲ出シタルカ東北ノ方面ニ向ヒタル追捕隊カ中村等ニ接近スルヤ中村一行側ヨリ拳銃（南部式）ヲ發射シタルヲ以テ追捕隊ヨリ小銃ヲ亂射シタル爲一行ハ全部其場ニ死亡セリ同追捕隊ハ事ノ重大性ヲ恐レ其儘逃亡シタルカ他ノ方向ニ向ヒタル別ノ追捕隊力銃聲ヲ聞キ付ケ現場ニ至リ中村一行死亡ノ光景ヲ見テ即時關團長ニ報告セル處

關ハ重大ナル國際問題ヲ惹起スル虞アリトテ即時證據溝滅  
カル  
各<sup>(2)</sup> 方面ニ追捕隊ヲ出シタルカ東北ノ方面ニ向ヒタル追捕隊カ中村等ニ接近スルヤ中村一行側ヨリ拳銃（南部式）ヲ發射シタルヲ以テ追捕隊ヨリ小銃ヲ亂射シタル爲一行ハ全部其場ニ死亡セリ同追捕隊ハ事ノ重大性ヲ恐レ其儘逃亡シタルカ他ノ方向ニ向ヒタル別ノ追捕隊力銃聲ヲ聞キ付ケ現場ニ至リ中村一行死亡ノ光景ヲ見テ即時關團長ニ報告セル處

ツツアリ中村大尉慘殺事件ノ如キ其性質極メテ重大ニシテ甚タ悲シムヘキコトナルモ右事件ハ右事件トシテ速ニ適當ナル解決方法ノ講セラルルニ於テハ其解決困難ナラサルヘシ中村事件ニ關聯シテ日本軍隊ノ動員計畫云々ヲ傳ヘラレ居ルモ右ハ全然事實無根ニシテ何等爲ニスル宣傳ト認メラル

348 昭和6年9月18日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

## 榮參謀長が第三團兵士による中村大尉一行の

殺害前後の状況に關し詳細談話について

奉 天 9月18日後発  
本 省 9月18日後着

## 第六一一號

## 中村事件ニ關シ

十八日森岡對榮參謀長ノ會見ニ於テ榮ハ左ノ通説明セリ

吳調査員十八日午前歸任シ報告書ヲ提出セルカ（詳細ノ説明ハ未タ之ヲ聞カス）自分（榮參謀長）カ今日迄關團長ニ付調查セル處ヲ綜合スルニ中村、井杉、支那籍露國人及蒙

349 昭和6年9月18日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

## 中村大尉殺害に関する中國側弁明反駁のため

## 特務機關と打ち合せについて

奉天 9月18日後発

本省 9月18日前着

奉天 9月18日後発

本省 9月19日前着

往電第六一二號ニ關シ

第六一二號

榮臻ノ談話其ノ他ヲ綜合考察スルニ中國側ハ殺害ヲ否認セ  
サルモ(中村等カ逃亡ヲ企テ拳銃ヲ發射シタルヲ以テ追捕  
ノ軍隊カ發砲ノ結果死亡スルニ至レリ)旅券ヲ携帶セス(三)  
軍事探偵等ノロ實ヲ以テ責任ヲ輕減スヘク日本側ニ對スル  
辯明方針ヲ打合セ居ルニ非スヤト察セラルヲ以テ本官一  
兩日中中國側説明ノ疑ハシキ點ニ關シ臧主席及榮臻ニ會見  
反問スル積リナルモ結局ハ反證ヲ提示スル必要起ルヘキニ  
付右ニ關シ特(務)機關側ト打合中ナリ

前電ノ通り轉電セリ

350 昭和6年9月18日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

第二回調査隊が中村大尉一行の中國側官兵による殺害を承認の旨新聞などに説明について

351 昭和6年9月19日 在中國矢野公使館參事官より  
幣原外務大臣宛(電報)

ジョンソン米国在中国公使が中村大尉事件を口実とする日本の東北奪取計画に關し談話について

第四一三號

北平 9月19日後発  
本省 9月20日後着

十七日夜「ジョンソン」公使ト雜談ノ際同公使ヨリ中村事件ノ經過ニ付尋ネラレタルヲ以テ本官ヨリ然ル可ク説明シタル處同公使ハ頗ル眞面目ナル態度ヲ以テ實ハ約一週間前或ル方面ヨリ日本ハ中國ノ現在ノ政局及水災ノ時期ニ乘シ滿蒙奪取ヲ計畫シ三ヶ月間ニ之ヲ完了スル豫定ニシテ中村事件ノ如キハ唯其機會ヲ誘發スル爲ノ計畫ニ過キスト聞込タルコトアリ旁自分ニ於テハ中村事件ノ成行ヲ注視中ナル次第ナリト語リタルニ付本官ハ日本政府ニ於テハ中村事件ハ唯中村事件トシテ其「メリット」ニ從ヒ地方的ニ解決ヲ計リ居ル次第ニシテ之ヲ機會ニ満蒙奪取ノ計畫アリ等ト爲スカ如キハ全然根據ナキ風説ナリ今日迄ノ情報ニ依レハ中村事件ハ場合ニ依リ案外簡単ニ片付クコトトナルヤニモ考ヘラルト答ヘタル處同公使ハ自分モ本件ノ地方的解決ヲ切望シ居ル次第ナリ日本ハ此際滿洲ヲ占領スルコトハ頗ル容易ナルヤモ知レサルヘケレト自分一個人ノ考トシテハ何故日本カ滿洲ヲ略取セサルヘカラサルカ甚タ諒解致シ難キ處

三 中村大尉事件

支那側ニ於テ殺害ノ事實ヲ承認セル以上第二段ノ措置トシ

テ責任ノ程度ヲ明確ニスル爲殺害ノ經過ニ關シ反證ヲ舉ケ事實ヲ穿鑿スル必要アル處右ニ先立チ支那側ノ言分カ一々外部ニ發表セラルルカ如キコトアラハ彼ノ折衝上<sup>(二字分アキ)</sup>不利ニ付當館ニテハ新聞通信ニ對シ左ノ通説明シ置ケリ

榮臻ハ十八日ノ會見ニ於テ森岡領事ニ對シ第二回調査隊十日午前歸奉シタル處右報告並關ノ自白ニ依レハ中村一行ハ六月廿六日捕縛セラレ翌廿七日夜官兵ニ依リ殺害セラレタル旨述ヘタリ

轉電先冒頭往電ノ通り

352 昭和6年9月21日 在牛莊荒川(充雄)領事より  
幣原外務大臣宛(電報)

當口の英國領事が日本の軍事行動是認の發言について

### 三 中村大尉事件

當 口 9月21日後発  
本 省 9月21日後着

ハルビン 9月28日後発  
本 省 9月29日前着

#### 第四七號（暗）

在當地英國領事他用ヲ以テ本官ヲ來訪セル際談偶々今回ノ

事件ニ及ヒタル處同領事ハ支那近年ノ不法横暴ナル對外特

二對日態度ニハ見ルニ忍ヒサルモノアリ日本カ今日迄圓滿

ナル國交ヲ支那ト保持シ來レルハ自分等ヨリ見レハ寧口不思儀<sup>シカ</sup>ニ感スル位ナリ最近中村事件モアリ今回ノ日本ノ態度

ハ何人モ當然トシテ是認スル處ニシテ支那人ニ好キ教訓ヲ與ヘ得ルヲ欣快トスト語リタルニ付本官ハ本件ハ決シテ中

村事件ニ起因スルモノニ非ス奉天附近ニ於ケル支那兵ノ満鐵線路破壞ニ次ク支那兵來襲ニ對スル軍略上ノ緊急措置ナル旨説明シ置ケリ

轉電先前電ノ通

~~~~~

353 昭和6年9月28日 在ハルビン大橋總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

チチハル領事より中國人証人待遇につき請訓

#### 第二六一號

齊々哈爾發本官宛電報

奉天へ轉電アリ度シ

#### 第二九號

往電第二三號及往電第二四號ニ關シ

郭ハ李ヲ伴レ出し數日前當地ニ到着シタリ佐藤ノ取調ヘタル所ニテハ李ハ元三團ノ兵士ヲ勤メ居リタル者ニシテ郭振

永ヨリモ事件ニ關シテ承知スル所多ク且正確ナリ尤モ銃殺ハ目擊セル所ナク唯一般ノ風説ニ依リ斯ク想像スルノミ又遺骨ノ所在地ニ付キテモ多分<sup>イマコ</sup>附近ナルヘシト想像スルニ止マリ的確ナル地點ヲ知ラサル趣ナリ

右李力證人トシテ今尙必要ナリヤ否ヤハ佐藤ヨリ軍部ニ問合セ其回答ニ依リ處置スルコトトシタルニ軍側ト御打合セノ上軍ヨリ至急佐藤ニ然ルヘク訓令回電セラル様取計ハレ度シ

大臣ニ轉電アリ度シ

編注 「ニ」の後に「付」との書き込みあり。  
~~~~~

354 昭和6年10月7日 杉山陸軍次官宛  
付記 十月二十九日閔東軍司令部発表

〔故中村震太郎少佐虐殺ノ真相〕

陸普第四二四四號

昭和六年十月七日

（10月7日接受）

一、六月二十五日

中村大尉一行ハ此日札齊特王府西方地區フルリー附近

（公府北東五十支里）ヲ發シ蘇鄂公府ニ向ヒタルカ途

中適々馬賊討伐ニ出動セル第三團所屬騎兵ニ遭遇シ馬

賊ト誤認セラレ追跡ヲ受ケシヲ以テ一時公府北東二十

支里華南公司ニ難ヲ避ケタリ次テ再ヒ南行ヲ開始シ正

午稍々前公府北方十支里ノ地點ニ於テ草刈中ナル蒙古

人白四冷ニ會シ公府所在地ヲ聽取シ公府ニ向ヘリ

二、此頃第三團東北監視所ノ衛兵ハ一行ノ南進スルヲ認メ「東方山坡ノ道路上ニ乘馬兵四、五人見ユ」トノ報告

ヲ齎セリ當時ノ衛兵司令屯墾第三團第一營第四連長王秉義ハ報ヲ得テ狼狽シ直ニ兵卒十餘名ヲ派遣シ之カ拉致ヲ命シタリ

#### （付記）

故中村震太郎少佐虐殺ノ真相（昭和六年十月二十九日）

（關東軍司令部發表）

事件ノ真相ニ關シテハ外交交渉上之力發表ヲ差控ヘ

外務次官 永井 松三殿

中村少佐及隨從者死亡認定ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シ參謀總長ニ於テ別紙寫ノ通り認定セラレタルニ付通牒ス

三、此頃一行ハ既ニ兵營西方ニ近接セル三團街ニ至リ三合居飯店ニ於テ休息中ナリ王連長ハ十數名ノ兵卒ヲ伴ヒ若干ノ取調ヲ行ヒシカ次テ第三團團長代理關玉衡來リ

會シ直ニ四名ヲ縛シ團部ニ拘引シ團附董平雨ニ交付セリ當時飯店ヲ圍繞セル群衆ハ悉ク着劍兵卒ニ依り追ヒ退ケラレタリ

第三團ニ在リテハ時恰モ團部會議ニ開催中ナリシガ通譯劉某ハ一行力第三團第一營兵營ニ拉致セラレ來ルヤ團長ノ命ニ依リ四名ノ身體検査ヲ始メ拳銃一挺ト薬品、金品、信書等ヲ搜出セリ

力」答「中村大尉、彼ハ私ノ小使ニ雇ツタモノ露國人ハハミタイ、シローコフ蒙古人一名ハ何ト言フカワカラヌ」問「何事ヲ爲ス爲メ中國ニ來タカ」答「中國ノ開墾ト鐵道ヲ視察ニ」「オ前ノ白面（ヘロイン・）ハ何ニ使フカ」答「賣藥」問「賣藥ハ不可ナリ中國ニテハ法律違反ナリ」ト四名ヲ無殘ニモ繩ニテ縛上ケ第二連ニ送付シ監禁ス董平雨ハ兵士ヲ派シテ再ヒ團長ノ來團ヲ請ヒシニ午後二時頃關玉衡來團セルカ即時全團ノ官長會議ヲ開キ董平雨ハ四人ト白面（ヘロイン）及拳銃、金票ヲ團長ニ交付セリ

シ銃殺ヲ命シタリ  
以上ノ人員ハ此命令ヲ受領スルヤ四人ヲ車ニ乗ラシメ  
「人モ馬モ衣服モ持チ行クカラ汝等ハ行ケハ夫レテ事  
ナシダ」ト稱シ東山溝ニ至ルヤ「下リロ」ト叫ヒ四人  
及馬五頭ヲ銃殺シ石油ヲ人馬ト衣服ニ注キ火ヲカケテ  
燒キ棄テタリ同地ニハ立射散兵壕アリテ之ニ埋沒セリ  
以上ノ各員ハ午前七時頃團ニ歸ヘリ即時團長ニ處置濟  
ノ報告ヲ行フ團長曰ク「本件ハ秘密ナリ各連長ハ連ニ  
歸ラハ兵士ニ說キ聞カスヘン斷シテ外部ニ洩ラスヘカ  
ラス我々中國人力日本ニ行ケハ同様ニ處置セラル  
中國ノ快男兒ハ對外的ニ此事ヲ言フ可カラス」云々ト  
若干ノ金品ヲ賞與トシテ交付セリ  
該連長等ハ各々之ヲ輩下ニ傳ヘタリ

ハ部下ヲ懷柔シ蒙古人ヲ買收シ監視ヲ嚴ニシ出入者ノ  
訊問ヲ行ヒ或ハ一行ノ骨ヲ碎ク等凡百ノ手段ヲ講シタ  
ルモ天網快々之ヲ洩ラサス我方ノ謀知スル所トナリ幾  
多ノ實證、證人ヲ獲得シ就中我强硬ナル要求ニ依リ支  
那官權關ヲ召致スルニ至ルヤ彼等ノ統制全ク紊レ各々

五、一行ハ左圖ノ如ク捕縛セラレ爾後食事ハ毎日二回三合(省略)

一行ハ左圖(省略)ノ如ク捕縛セラレ爾後食事ハ毎日二回三合居ニ於テ關玉衡ノ注文ニ依リ喫食セシメラレ煙草ノ如キモ之ヲ與ヘラレタリ食事間兵卒ニヨリ監視セラル

六月二十七日人情況

午後十時關玉衡ハ兵四名ヲ派遣シテ一行ヲ再ヒ引出サシメ訊問セルカ先ツ中村大尉ニ尋ネテ曰ク「汝ハ何ノ爲ニ中國ニ來リシヤ」答「開墾ト鐵道ヲ看ニ」問「汝ハ白面（ヘロイン）ハ何ノ用ヲナスヤ」答「賣買スル

モノ併シ中國ニテ白面カ法律違反タルコトハ分ラヌ  
問「露國人ト蒙古人力中國ニ來リシハ何ノ爲カ」答  
「賃銀テ雇入レ道案内ニ伴ヘリ」團長關曰ク「汝ハ善  
良ノ人テナイ實際ノ事ヲ言ハヌオ前ノ言フコトハ私モ  
分カラヌオ前ハ言フ必要ナシ」ト兵士ヲ派シ四人ノロ○  
ニ棉花ヲ挿入シ繩ニテ脛ヲ縛リ皮鞭ヲ以テ半時間許リ  
亂打セシム次テ團部ノ少尉副官劉天鵬及趙衡ノ二名ヲ  
派シ大軍一輪石油一筒ヲ持チ來ラシメ更ニ第一連・連長○  
博長春、第二連・連長聰文龍、第三連・連長崔秀蜂、  
第四連・連長王秉義、關ノ從卒白玉龍等ヲシテ一行ヲ蒙  
古王府ニ連行スト許稱シ團部東方ニ支里ノ地點ニ押送

責任轉移ヲ始ムルニ至レり事變考發二件ヒ第三團ハ高  
仁絃ノ羈絆ヲ脱シ馬賊兵匪ト化シ一同逃避散逸スルニ  
至レリ

昭和6年11月11日 在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

昭和6年11月11日  
在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）

昭和6年11月11日  
在奉天林總領事より  
幣原外務大臣宛（電報）  
中村大尉事件責任者閔玉衡の情報について  
付記一 昭和七年三月二十九日付芳沢外務大臣より  
在中国重光公使、在北平矢野公使館參事官、  
在奉天森島總領事代理、在上海村井總領事、  
在南京上村總領事代理宛亞一機密合第二八  
一号公信

中村少佐一行のヘロイン所持に関する沢田連盟事務局長への回電について

二 昭和七年（月日不明）沢田連盟事務局長への回電案

三 昭和十年六月三日付在鄭家屯瀘山領事より

在満州國南大使宛普通第一八九号公信

故中村少佐と井杉曹長の遺骨發見の真相に

ついて

四 昭和十年七月三日付在鄭家屯瀧山（靖次郎）

領事より広田（弘毅）外務大臣宛普通第二

一七号公信

中村、井杉両烈士紀念碑の除幕式挙行につ

いて

奉 天 発

本省 11月11日後着

第一二四八號（暗）

本官發齊々哈爾宛電報

第二四號

哈爾賓發大臣宛電報第五四七號第一項關大佐ノ指揮下ニ在

ル洮南屯墾軍云々ニ關シ右關大佐ハ中村大尉慘殺ノ責任者

タル關玉衡ナルヤニ察セラルル處關ハ事變後當地ヨリ脱走

シ行衛不明トナリ居ル次第ニモアリ出來得レハ右真相御調

查ノ上御回電アリタシ

大臣、哈爾賓、支、北平へ轉電セリ

（付記一）

亞一機密合第一八一號

昭和七年三月二十九日

外務大臣 芳沢 謙吉

在中国

重光 葵公使他宛

中村少佐一行「ヘロイン」所持説ニ闇スル件

客年興安地方ニ於テ支那兵ノ為メ殺害セラレタル中村少佐

一行力「ヘロイン」ヲ所持シタリトノ報道寿府方面ニ於テ

問題トナリツツアル趣ヲ以テ沢田聯盟事務局長ヨリ説明振

請訓アリタルニ對シ當方回訓ノ次第ハ關係電報（三月二十

六日轉電）ニ依リ御承知ノ通ナル処右當方回訓冒頭言及ノ

The Anti-Opium Information Bureau 配布書類写御参考迄別添送付ス

本信最寄り公館ニ於テ聯盟支那調查參與委員吉田大使ニ示

サレ度

本信宛先 在支公使、北平、奉天、上海、南京

（別紙トシテ The Anti-Opium Information Bureau,

Press Note No.32 "The Manchurian Issue - A New

之ヲ捕ヘ恣ニ殺害セル如キハ到底許スヘカラサル罪惡ナリ

Opium War” 写作成添付ノコム

（付記II）

普通第一八四號

昭和十年六月三日

在鄭家屯

（欄外記入一）貴電第二七九號ニ關シ

二月二十五日附阿片委員會書類第四十四號ニ依ルニ客年十

月二十九日關東軍發表（十一月十六日附報一普通合第一三

四八號ヲ以テ送付濟、一行ノ「ヘロイン」所持ヲ推測セシ

ムル記載アリ）ハ同委員會方面ニ於テ承知シ居ル所ナルニ

顧ミ本件ヲ斷定的ニ否定スルコトハ困難ト認メラルニ付

必要ニ應シ左記趣旨ニテ可然應酬アリ度

中村少佐一行ハ長期ニ亘リ僻遠ノ地ヲ旅行セルモノニ付各

種ノ薬品類ヲ準備セルコトハ想像ニ難カラス此ノ中ニハ小

量ノ「ヘロイン」モアリタルヤモ知レス又一行中ノ蒙古人

又ハ露國人ニ於テ之ヲ所持セルコトモアリ得ヘキカ何レニ

スルモ本事件交渉ノ際在奉天支那當局力日本領事官憲ニ示

シタル同少佐遺留品ニハ「ヘロイン」ナク又同當局ハ一行

ノ「ヘロイン」所持ニ何等言及スルコトナカリシモノトス

普通第二八九號

昭和十年六月三日

在鄭家屯  
領事 瀧山 靖次郎

在滿洲國

特命全權大使 南 次郎殿

三 中村大尉事件

故中村少佐及井杉曹長ノ遺骨發見説ニ關スル真相  
報告ノ件

故中村少佐及井杉曹長ノ遺骨發見ト題シ先般各新聞紙上ニ報道セラレタルニ對シ洮南警察分署ヲシテ取調ヘセシメタル結果其真相別記ノ通ニシテ右ハ兩烈士ノ遺骨ニアラサルコト略々明瞭トナレル趣ナリ

右何等御参考迄報告申進ス

本信寫送付先

外務大臣、奉天、齊々哈爾

記

目下洮南及蘇鄂公爺府ニ於テ中村井杉兩勇士紀念碑建設中ニシテ工事責任者タル落合角藏ハ五月十三日蘇鄂公爺府附近土中ニ埋レタル喇嘛教ノ教卷ヲ發見シタルヲ以テ中村井杉兩勇士遺骨ノ所在ヲ示ス何カノ暗示ニ非スヤト直感シ王爺廟警察局伊藤巡官ト共ニ之力搜查ノ爲附近最高ノ山頂ニ至リ右山峽ヲ望見中紀念碑所在地東南方約三支里ノ山腹ニ石垣ノ如キモノヲ認メタルニヨリ不審ニ思ヒ現場ニ至リタルニ多數ノ小石ヲ積重ネアリシヲ以テ之ヲ取除キタルニ頭

(付記四)

普通第二二七號

昭和十年七月三日

在鄭家屯

領事 龍山

靖次郎〔印〕

外務大臣 廣田 弘毅殿

昭和十年七月三日附在滿大使宛普通

(7月9日接受)

（欄外記入一）  
沢田聯盟事務局長宛回電案  
本回電案陸軍側異議ナキ旨鈴木中佐ヨリ回示アリタリ  
編注 「署」のあとに「及」との書き込みあり。

第三五二號寫送付  
件名

一、中村、井杉兩烈士紀念碑除幕式舉行ノ件

普通第三五二號

昭和十年七月三日

在鄭家屯

領事 龍山 靖次郎

本信寫送付先

特命全權大使 南 次郎殿

中村、井杉兩烈士紀念碑除幕式舉行ノ件

故中村少佐及井杉曹長ノ紀念碑建立ニ關シテハ四月二十二日附普通第二〇六號拙信申進ノ次第アル處右ハ先般竣工セ

ルヲ以テ遭難現地蘇鄂公爺府ノ標牌ハ客月二十六日、洮南ニ於ケル紀念碑ハ同二十八日兩烈士ノ遺族六名ヲ迎ヘテ何

蓋骨及顎骨ラシキモノノ外多數ノ小骨ヲ發見シタルヲ以テ兩勇士ノ遺骨ニ非スヤト思料シ之ヲ取纏メ飯宿シ此ノ旨玉爺廟警察局ニ對シ報告シタル結果不取敢同局ニ於テハ五月十八日福原科長ヲ現場ニ派シ右遺骨ヲ木箱ニ納メ飯王セシメタルモノニシテ之力真否判明セサル内新聞ニ報道サルル際同所ニ埋葬シタルニ其ノ後山火事ニ遭遇焼却セラレタルモノニシテ兩勇士ノ遺骨ニ非ラサルコト殆ント確定的ナリ

其後同局、旗公署王爺廟憲兵分遣隊ニ於テ調査ノ結果蘇鄂公爺府居住蒙古人嘎魯地ノ妻女カ民國十九年五月死亡シタルモノニシテ兩勇士ノ遺骨ニ非ラサルコト殆ント確定的ナリ

(續註)  
玉爺廟警察局ニ對シ報告シタル結果不取敢同局ニ於テハ五月十八日福原科長ヲ現場ニ派シ右遺骨ヲ木箱ニ納メ飯王セシメタルモノニシテ之力真否判明セサル内新聞ニ報道サルル際同所ニ埋葬シタルニ其ノ後山火事ニ遭遇焼却セラレタルモノニシテ兩勇士ノ遺骨ニ非ラサルコト殆ント確定的ナリ